

名古屋大学大学院
人文学研究科 人文学専攻

2022 年度 日本語教育実習報告書

実習生：譚斯琪 陳釗穎 徐曼

指導教員：鷺見幸美

目次

第1部 中日本自動車短期大学での日本語教育実習

| | | |
|-----|--------------|----|
| 1. | 実習の概要 | 5 |
| 1.1 | 実習参加者と担当教員 | 5 |
| 1.2 | 実習の内容 | 5 |
| 1.3 | 全体の流れとスケジュール | 6 |
| 1.4 | 実習の特徴 | 7 |
| 2. | 事前準備 | 8 |
| 2.1 | 教案作成の練習 | 8 |
| 2.2 | 実習先の決定 | 9 |
| 2.3 | 実習内容の決定 | 9 |
| 3. | 授業見学 | 10 |
| 3.1 | 実習直前の見学 | 10 |
| 3.2 | 実習中期の見学 | 12 |
| 4. | 実習経過 | 15 |
| 4.1 | 初回授業とコメント | 15 |
| 4.2 | 初回以降の調整 | 16 |
| 4.3 | 授業準備の過程 | 17 |
| 4.4 | 授業の流れ | 17 |
| 5. | 授業評価 | 18 |
| 5.1 | アンケートの作成 | 19 |
| 5.2 | アンケートの実施 | 19 |
| 5.3 | 結果統計 | 19 |
| 5.4 | 振り返り | 20 |
| | 付録 | 22 |

第2部 上海外国語大学での日本語教育実習

| | |
|-------------------------------|----|
| 1 概要 | 24 |
| 1.1 実習の参加者 | 24 |
| 1.2 実習内容 | 24 |
| 1.3 実習の流れ | 24 |
| 1.4 授業のスケジュール | 25 |
| 1.5 実習の特徴 | 26 |
| 2. 準備とその流れ | 27 |
| 2.1 コースの作成 | 27 |
| 2.1.1 授業の目標 | 27 |
| 2.1.2 授業のプログラム | 27 |
| 2.2 実習先教員の協力 | 29 |
| 2.3 学生募集 | 29 |
| 3. 実習 | 29 |
| 3.1 オリエンテーション | 29 |
| 3.2 導入授業 | 30 |
| 3.3 コマ1 「聖地巡礼」、及びそれがもたらした経済効果 | 30 |
| 3.4 コマ2 コスプレ文化について | 32 |
| 3.5 コマ3 日本におけるオタク文化 | 34 |
| 3.6 コマ4 日本におけるオタク文化 | 35 |
| 3.7 コマ5 日本における古着ブーム | 37 |
| 3.8 コマ6 古着ブームの裏側に高まる若者の環境意識 | 39 |
| 3.9 最終発表 | 41 |
| 4. コースが終わった後 | 49 |
| 4.1 アンケートの作成と回収 | 49 |
| 4.1.1 授業評価の結果 | 49 |
| 4.1.2 学生自己評価の結果 | 52 |
| 4.2 賞品の準備 | 54 |
| 付録 | 55 |

第3部 実習をふりかえって

| | |
|------------------------|----|
| 実習の感想 | 62 |
| 様々な教え方を未来へ | 64 |
| 日本語教師になるのは簡単ではない | 66 |

第 1 部 中日本自動車短期大学での日本語教育実習

日本語教育学分野前期課程 2 年
陳 釗穎

1. 実習の概要

第 1 部では、2022 年度中日本自動車短期大学（以下、NAC という）での日本語教育実習について報告する。第 1 章では、実習の概要を紹介する。第 2 章では、実習の事前準備を述べる。第 3 章では、NAC での授業見学の経験を記録する。第 4 章では、実習経過の詳細について記述する。第 5 章では、授業評価アンケートを実施した結果について分析し、実習を振り返る。

1.1 実習参加者と担当教員

実習参加者は 1 人、陳釗穎（チンチョウエイ）である。名古屋大学大学院人文学研究科・人文学専攻・日本語教育分野博士前期課程 2 年に所属している。

指導教員は名古屋大学人文学研究科・准教授、鷺見幸美先生である。なお、実習の TA（ティーチング・アシスタント）として、名古屋大学大学院人文学研究科・人文学専攻・日本語教育分野博士後期課程の劉嘉勇さん、王淋萱さん、南明世さんに協力して頂いた。

今回の実習は、NAC の実習生担当教員、古川竜治先生からご協力を頂いた。

1.2 実習の内容

実習の内容は NAC の留学生を対象に、週に 1 回日本語の授業を対面で行うことである。以下では実習の詳細を紹介する。

対象：NAC は自動車の機能や構造について学び、自動車整備士を目指すための短期大学であり、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及びキャリア開発科目を配置している。授業の対象は、本科に進学する前の留学生別科に所属する学生である。

学生の平均日本語レベルは、日本語能力試験 N4 合格であった。2022 年の学生は 8 人おり、男性 7 人、女性 1 人である。国籍は中国（6 人）、ベトナム（1 人）、ブラジル（1 人）である。

教材：授業で使用した教科書は『できる日本語 初中級 わたしのことばノート（アルク）』と『できる日本語 初中級 わたしの文法ノート（アルク）』（以下それぞれ『ことばノート』と『文法ノート』と称する）である。この二冊は、『できる日本語 初中級 本冊』の補助教材として作られたものであり、『本冊』で学習する語彙や文法を整理・復習・応用することに使う教材である。

なお、実習生が作成したテスト用紙とスライドショーも教材として使用した。テスト用紙では、前の週の授業で復習した語彙と文法に絞って出題する。時間は10分であり、分量の目安はA4両面一枚である。スライドショーは、教科書の練習問題の解答例の提示を中心に、内容によって写真や実習生作成の練習問題などを入れた。

時限：授業は毎週木曜日の午後3限目(13:30～14:00)と4限目(14:10～16:40)であった。

1.3 全体の流れとスケジュール

以下では、時間軸に沿って実習の事前準備から終了まで、全体の流れを示す。

表1 実習全体の流れ

| | |
|------------------|---|
| 2021年10月 | 日本語教育基礎実習bの授業で、実習先の決定について検討し、実習先を二ヶ所に絞った。 |
| 2021年10月～2022年1月 | 鷺見先生から実習先の担当教員に実習の可能性や授業形式について、メールで打診して頂いた。 |
| 2022年1月末 | 実習先と授業形式を最初に決定した。 |
| 2022年2月14日 | 鷺見先生の紹介で、NACの担当教員古川先生とzoomで打ち合わせをした。 |
| 2022年3月1日 | オンラインでNACの別科講師会に参加した。 |
| 2022年2月～4月 | 本番に向けて教案を試作した。 |
| 2022年4月14日 | 古川先生からNACのキャンパスを案内して頂いた。午前中に、清水先生の授業を見学した。 午後、初回の授業を行った。 |
| 2022年5月12日 | 古川先生の授業を見学した。 |
| 2022年6月9日 | 午前中に、清水先生の授業を見学した。 |
| 2021年4月～7月 | 週に1回、合計15回の授業を行った。 |
| 2022年7月28日 | 最終回の授業、及び授業評価アンケートを実施した。 |

授業のスケジュールは実習が始まる前に決めた内容を変更した。変更前は実習生一人で毎週2コマの授業を担当する予定であったが、古川先生と相談し、予定を変更して頂き、5月12日は授業を担当せず古川先生の授業を見学し、5月19日から7月21日までの10回は1コマのみを担当した。実際のスケジュールと実習生が担当した内容は以下に示す。

表 2 授業のスケジュールと実習生の担当内容

| 日付 | テーマ | 担当内容 |
|-------|--------------------|--------------|
| 4月14日 | 第1課「新しい友達」 | ことばノート+文法ノート |
| 4月21日 | 第2課「楽しいショッピング」 | ことばノート+文法ノート |
| 4月28日 | 第3課「私の目標」 | ことばノート+文法ノート |
| 5月12日 | 第4課「住んでいる町」 | なし（見学） |
| 5月19日 | 第5課「大変な1日」 | ことばノート |
| 5月26日 | 第6課「旅行に行こう」 | ことばノート |
| 6月2日 | 第7課「西川さんの家へ」 | ことばノート |
| 6月9日 | 第8課「ありがとう」 | ことばノート |
| 6月16日 | 第9課「アルバイト先で」 | 文法ノート |
| 6月23日 | 第10課「旅行に行って」 | 文法ノート |
| 6月30日 | 第11課「地域社会の中で」 | 文法ノート |
| 7月7日 | 第12課「私の健康法」 | 文法ノート |
| 7月14日 | 第13課「親の気持ち・子供の気持ち」 | ことばノート |
| 7月21日 | 第14課「イベント・行事」 | ことばノート |
| 7月28日 | 第15課「気になるニュース」 | ことばノート+文法ノート |

1.4 実習の特徴

①実習期間中には、新型コロナウイルス感染症が流行っている最中であるが、一時開国によって、昨年10月に入学した学生たちは来日することができた。学生が教室に揃ったため、授業は対面で行われた。今年の対面授業は防疫対策を施した上で実施された。教室で必ずマスクをつけると規定されて、換気するために窓が開けられていた。また、朝授業開始時に、学生に検温を行っていた。

②実習生は一人しかいなかった。国籍は中国であり、母語は中国語である。

③クラスに中国人が多かったが、ベトナム人とブラジル人もいたため、授業は全て日本語で行われた。

④この実習はNAC留学生別科のカリキュラムに沿い、指定された教科書を使って授業を行った。NAC留学生別科の学生は平日毎日、日本語の授業を受けている。その中に、新しい言語知識の導入をする授業や日本語能力試験対策の授業などがある。実習生が担当するこの授業の位置付けは、水曜日と木曜日の午前中に導入した文法と語彙知識を、もう一度学生に復習させ、応用を促すということである。別科の日本語授業の時間割を以下に示す。網掛け部分が実習授

業である。

表 3 NAC 別科 2022 年春学期の授業内容

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|----------|--------------|-----------------|-----------------|--|
| 1 | 前課テスト | 会話内容導入 | できる 1 | できる 2 | 文法ノート (「ポイントチェック」、「水やり」、 「花」の頁を中心に) 本冊：話読聞書 |
| 2 | 新出語導入 | 会話内容導入 | できる 1 | できる 2 | |
| 昼休み | | | | | |
| 3 | 文型トレーニング | ゼミ 会話テスト | 前々週の復習 | 今週の復習 | |
| 4 | 聴解トレーニング | こころカード 小説 | 前々週の復習 ことば短文 | ことばノート 文法ノート | |

⑤この実習は講義の形ではなく、4ヶ月に渡って、週に1回授業を行われた。

⑥実習先 NAC の教室はコンピューターや投影設備が完備されている。実習期間中にスライドショーなどの教材も使用した。

⑦実習生のパフォーマンスを振り返るために、一部分の授業を録画した。

2. 事前準備

実習の事前準備は三つの段階で構成されている。まずは2021年秋学期の「日本語教育基礎実習 b」の授業で教案作成の練習をした。続いて、実習先の決定、授業内容についての相談、本番に使う教案と教材の作成である。最後に、実習先で授業を見学し、実習期間中に教案を書き直したり、後半の教材を作ったりした。以下、具体的な準備過程について記録する。

2.1 教案作成の練習

2022年春学期の実習に備えるために、2021年秋学期に「日本語教育基礎実習 b」の授業を履修し、教案作成の練習をした。

実習先は、授業の初期に中日本自動車短期大学と上海外国語大学の二ヶ所に絞った。上海外国語大学の日本語学科は『日語総合教程』、中日本自動車短期大学の留学生別科は『できる日本語』、それぞれ違う教科書を使用している。この二つの教科書からそれぞれ一課を抽出し、実習生全員が二種の教案を作成する練習をした。

授業の流れは以下のようにまとめる。まず、実習生はペアになり、二人で教科書に基づいて授業計画を立て、スライドを作成し、その概要を次の授業で発表する。授業で他の参加者が

らもらったコメントを参考に計画を改善し、一人で自分の教案を書く。教案の作成について、TAの先輩にコメントして頂くことができる。書いた教案を次回の授業で発表し、コメントをもらう。

2.2 実習先の決定

実習先は参加する学生が自由に決めることができる。実習生は自ら実習先から許可をもらったら、行きたい学校へ行けるということである。例年は中国の上海外国語大学で2週間の実習を行うことが多いが、近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、上海へ現地で実習を行うことが難しい状況である。前回(2021年)から、上海外国語大学での実習はオンライン授業の形で行われていた。また、昨年NACで非常勤講師を勤めていたTAの先輩の紹介、そして担当教員の鷺見先生とNACの高瀬先生の協力のおかげで、NACで実習を行う機会を頂いた。

今回の実習先は、秋学期の授業の初期に検討し、全員中日本自動車短期大学と上海外国語大学の二ヶ所に絞った。だが、中日本自動車短期大学の場合は、2021年の入国制限のため、10月に入学した学生は全員母国にいたので、渡日可能の時期がわからなかった。上海外国語大学の場合は、中国の防疫政策により、感染者人数が増えたら、随時に休講することもあり得る。当時の状況は私たち実習生の需要と色々矛盾していたところがあり、なかなか決められなかった。

2021年10月から、鷺見先生はこちらの実習希望を両大学の先生にメールで打診して下さった。NACの古川先生に状況を説明し、古川先生の理解を頂いた。

2022年1月に、古川先生からの連絡により、4月からもオンライン授業になる可能性が高いようで、実習希望をもう一度確認された。個人的にはオリジナル授業より決まった教材を使った方が希望だったため、上海外国語大学よりNACのほうが希望に合うと考え、オンライン授業の形でもNACにすることに決めた。それで、鷺見先生から古川先生にメールで一人が実習希望であることを伝えて頂いた。

2.3 実習内容の決定

2022年2月に、鷺見先生を通して、NACの古川先生に履歴書を提出した。同時に、語彙や文法の授業をしてみたいという希望を伝えて頂いた。

2月14日に、鷺見先生の紹介で、古川先生とzoomで打ち合わせをした。打ち合わせでは、中日本自動車短期大学の概況や留学生別科の授業について紹介して頂き、授業の内容を語彙と文法の復習に決めた。前回の復習内容で10~15分の問題を作成し、毎回小テストを行うというタスクが加わった。

3月1日に、古川先生の招待で、NACの留学生別科の講師会に参加させて頂いた。講師会は、別科の先生方々がお互いに挨拶し、自分の授業計画を対照し合い、内容を調整するために

開かれた。講師会で、水曜日午前と金曜日午前の授業を担当する青海先生も『文法ノート』を授業で使う予定だと知り、青海先生と話し合い、それぞれの担当範囲を決めた。

その後、答え合わせ用のスライドの作成を始めた。

3月下旬に、別科の学生が全員4月において渡日できることは確認された。授業は対面形式で行われることに決定された。

4月の初めに、TAの劉先輩のアドバイスをもらって、第1回の授業の教案を作成し、鷺見先生に送ってコメントを頂いた。先生のコメントを参考に教案の内容を書き直した。

3. 授業見学

NACの先生の授業を正式に三回見学させて頂いた。一回目は実習が始まる当日(4月14日)、午前の清水先生の授業である。二回目は5月12日に、古川先生が同じ木曜日午後の授業を行う様子を見学させて頂いた。三回目は6月9日に、午前の清水先生の授受表現についての授業を見学させて頂いた。その他、五回目から十四回目まで、古川先生が担当する部分も見学させて頂いた。

3.1 実習直前の見学

NACは新鵜沼駅と短大キャンパスの間にバスを運営している。平日には新鵜沼駅発のバスが1日3回運行されていた。初日に朝早く電車で新鵜沼駅に到着し、8:55発のバスに乗車し、9時20分前後にキャンパスに到着した。約束した場所で古川先生に会い、挨拶してから、非常勤講師室や別科の教室までのルートなどを案内して頂いた。そして、教室に入り、清水先生と学生の皆さんに紹介して頂いた。

その後、清水先生の授業を見学した。清水先生が担当していたのは『できる日本語 初中級 本冊』毎課の2の部分の導入(表3参照)である。授業の位置付けは自分が担当する授業と違っていたが、私には、初めて日本人の先生が対面で初級レベルの授業をする様子を見る機会であった。以下は見学した初回の授業の流れと感想を記録する。

表4 清水先生の導入授業の見学記録

| | | | |
|-------|---|----|---------------------|
| 担当教師 | 清水恵美先生 | 日時 | 4月14日(木) 9:30~12:40 |
| 対象学生 | 留学生8人 N4合格 | 科目 | 日本語総合 |
| 内容 | 『できる日本語 初中級 本冊』第1課 2の部分 | | |
| 教材と教具 | 『できる日本語 初中級 本冊』、『言ってみよう別冊』、学習帳、CDプレーヤー、スライドショー等 | | |
| 学習項目 | 文型：～のがA、～のはA、Vるようになります(能力の変化) | | |
| 活動 | 内容 | | |

| | |
|-----------|---|
| ウォーミングアップ | 教師の自己紹介、学生の自己紹介、雑談等 できること（目標）を説明する |
| チャレンジ 1 | イラストを見ながら質問する。会話の内容を学生に推測させる。会話の録音を聞かせる。 |
| 文法の導入 1 | 録音に出てくる新出文型と既習文型（或いはチャレンジで学生が使った文型）との違いを、例文を挙げながら説明する。 ①サッカーが好きです。 →②と③のどちらが分かりません ②サッカーをするのが好きです。 ③サッカーを見るが好きです。 など |
| 話す練習 1 | 別冊で話す練習をする。本冊の練習を一人一人ですべて復唱させる。例文の話題を取り上げ、学生自身について聞く。（学生の誤用をきっかけに復習：助詞「に」「で」の区別・「山に／をのぼる」の区別）ペアで会話練習をする。コーラスで会話を読ませる。もう一回録音を聞かせ、シャドーイングさせる。 |
| 書く練習 1 | 学習帳を使って、文を作る問題を書かせる。教師が机間巡視し、学生の書いた答えに個人指導をする。一人ずつ答えを言わせる。 |
| 休憩 10 分 | |
| チャレンジ 2 | 流れ同上 |
| 文法の導入 2 | 流れ同上 「～のが」「～のは」の違いを説明する。 ①（私は）～～が好きです。②日本語を話すのは難しいです。 ↑主題（私 or 日本語）が違う など |
| 話す練習 2 | 流れ同上 |
| 書く練習 2 | 流れ同上 |
| 聞く練習 | 『本冊』の「やってみよう」の聞き取り練習：CDの録音を一回流す。学生答えを言わせる。もう一回録音を流す。 |
| 文法の導入 3 | 流れ同上 |

注：時間が足らず、項目「V ようになります」の練習を学生にさせられなかった。

見学の感想：

別科留学生たちの授業への参加態度は思ったより積極的だった。中には一年間日本で生活したことがあり、日本語に慣れている学生もいたし、漢字は少し苦手なベトナム人もいた。

前学期の授業で私たちを悩ませた文法導入は清水先生の進め方が大変参考になった。自分も

学生の一員として、その文法項目をもう一度勉強した気分だった。

学生全員を二つのグループに分け、会話文を一問一答で読ませる方法（後に、この方法は「コーラス」と呼ぶと鷺見先生から教えて頂いた）は、以前見たことがあるが、実際にどんな効果があるのがはじめて知った。いきなり会話してと言われたら、学生は戸惑う時がある（自分の授業ではそのような様子を見た）、グループの一員として声を出させて会話の内容に慣れさせる手段は非常に役にたつことがわかった。

清水先生が自然に机間巡視をしている様子を見て、自分もそのようにできたらいいなあと思っている。私は性格的にそのような行動が苦手だと感じている。教師になるには、頑張っって色々苦手なことを克服しなければと思った。

3.2 実習中期の見学

三回授業をした後、古川先生の復習授業を見学する機会を頂いた。今回は自分が担当する授業と同じであり、流れと方法について大変勉強になった。以下は見学した古川先生の授業で最も勉強になったところを記録する。

表 5 古川先生の復習授業の見学記録

| | | | |
|--------|---|----|----------------------|
| 担当教師 | 古川竜治先生 | 日時 | 5月12日(木) 13:30~16:40 |
| 対象学生 | 留学生8人 N4合格 | 科目 | 初級集中講座 |
| 内容 | 『できる日本語』第1課 復習 | | |
| 教材と教具 | 『ことばノート』、『文法ノート』、スライドショー等 | | |
| 学習項目 | 復習：第4課の語彙と文型 | | |
| 項目 | 内容 | | |
| 先週分テスト | 宿題の完成状況をチェックする。テスト用紙を配り、先週復習した内容に10分間テストを行う。 | | |
| ことばの復習 | ランダムで指名する。 | | |
| | 学生と一緒にことばを読む。ランダムでことばを指して読ませる。 | | |
| | 似たことば(例：びょういん・びょういん)のモーラを数えさせる。 | | |
| | 意味を確認する時、ことばに応じて質問を変える。例：いつ行きますか。何をしますか。 | | |
| | 学生に漢字の書き方を分からせるために大きくゆっくり書く。 | | |
| | 教科書のことばを一つのストーリーにしてつなげて学生に理解させる。絵を書いて、或いは写真で名詞を理解させる。 | | |
| 休憩 10分 | | | |
| 文法の復習 | 学生に答えさせる：どんな時使いますか。 | | |

| | |
|--|-----------------------------------|
| | 漢字や文を黒板に書いて学生に正誤を判断させる。 |
| | 既習した用法と対照する。（「名詞＋なら」と新知識「普通形＋なら」） |
| | 場面を作って、話し手の気持ちを理解させる。 |
| | 2人ペアで会話を作らせて、発表させる。 |
| | 時間軸を描いて文法を説明する。（「まで」と「までに」の区別） |

感想：古川先生の授業を見たら、自分が講壇に立っている時に気づいていないことが多いことがわかった。立ち位置、板書の書き方、教室での移動など、教授内容以外に教師がそれを変えるだけで、その効果がこんなに違うのかと初めて意識した。そして、学生にもっと日本語で意見を話させる方法及びその効果を実際に見せて頂いた。私は中国で受けた日本語授業の影響で、学生に話させることがあまり得意ではない。古川先生は非常に自然と学生と会話して、学生に文型を使えるように導いていた。文を作る練習も、一つ的话题を提示し、学生にその話題を中心に文を作らせる方法なども巧みだった。

もう一回の見学について詳細を記録する。6月9日午前の清水先生の授受表現についての授業である。授受表現は私にとって相当複雑で説明しにくいと思っていた文法である。予め古川先生にNACの先生の導入授業を見学させて頂きたい希望を伝え、古川先生から木曜日の導入を担当していた清水先生にお願いして頂いた。（実は水曜日午前の授業が初めての導入だったが、自分のスケジュールの原因で二日連続NACに行くのは難しかったので、木曜日の敬語の授受表現の導入授業をお願いした。）以下は見学した授業の見学記録である。

表6 清水先生の授受表現の授業の見学記録

| | | | |
|--------------|--|----|--------------------|
| 担当教師 | 清水恵美先生 | 日時 | 6月9日(木) 9:30~12:40 |
| 対象学生 | 留学生8人 N4合格 | 科目 | 日本語総合 |
| 内容 | 『できる日本語 初中級 本冊』第8課 2の部分 | | |
| 教材と教具 | 『できる日本語 初中級 本冊』、『言ってみよう別冊』、学習帳、CDプレーヤー、スライドショー、絵のカード等 | | |
| 学習項目 | 文型：Nを/Vいただきます、Nを/Vてくださいます | | |
| 活動 | 内容 | | |
| ウォーミングアップと復習 | <p>できること（目標）を説明する：お世話になったことを他人に話す・お世話になった人にお礼を言う。</p> <p>「あげる・もらう・くれる」の復習 →初級で 物の送り</p> <p>教師二人で絵のカードをもってプレゼントを贈るシーンを演じる^注</p> <p>誰が言うのが大事。「は/が」の前にはだれが大事。</p> | | |

| | |
|---------|---|
| | <p>ものを受ける人は「あげる」を使わない。</p> <p>ものを贈る人は相手に直接「あげる」と言わない。言ったらちょっと失礼。他人に伝達する時なら言える。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> </div> <div> <p>教師が文を言って学生に何番を判断させる。学生に順番で文を一緒に言う。一人一人て文を復唱する。①～あげる②～あげる／もらう③～くれる／もらう</p> </div> </div> |
| チャレンジ 1 | イラストを見ながら質問する。会話の内容を学生に推測させる。会話の録音を聞かせる。 |
| 文法の導入 1 | <p>相手が目上の人の時、（チャレンジで学生が使った）「もらう」がちょっと失礼？How?→敬語を使う→いただく</p> <p>相手は目上の人、あまり親しくない人</p> <p>例文：AはWにいただきました。←私はWにAをいただきました。</p> <p>どちらについて話すのかによって【主題改換】</p> <p>私はAさんに～いただく→Aさんは～くださる【視点改換】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> </div> |
| 話す練習 1 | <p>スライドショーの絵を見て文を作る練習</p> <p>学生に文を言わせて、もう一度最初から他の学生に復唱させる。</p> |
| チャレンジ 2 | 流れ同上 |
| 文法の導入 2 | <p>＜「Vていただく・くださる」を導入＞</p> <p>【区別は？】①Aさんは私に教えました。（事実）</p> <p>②Aさんは私に教えてくださいました。（気持ち）</p> <p>なぜ使う？→他人に伝えたい→ありがとう・うれしい</p> |
| 話す練習 2 | <p>スライドショーの絵を見て文を作る練習</p> <p>最近、他人にしてもらったことについて語る。</p> |
| 書く練習 2 | 学習帳を使って、文を作る問題をやらせる。教師が机間巡視し、学生の書いた答えに個人指導をする。一人ずつ答えを言わせる。 |
| 社交文化の導入 | <p>＜お礼の言い方＞お世話になった人に何日が経って会った時にお礼を言う。「この間、～くださって、ありがとうございました。」</p> <p>教師と学生がロールプレイで練習する。</p> |
| 聞く練習 | 『本冊』の「やってみよう」の聞き取り練習 |

注 このシーンは清水先生が受ける側、私が贈る側を演じた。学生がまだ「あげる」が使える相手

について理解できていないと考え、学生に任せると実際に良くない例（失礼な言い方）になるかもしれないと心配して、私とその役を演じる方がいいと判断されたとのことである。

清水先生はとても親切で、私に授業の協力を依頼したのみならず、休憩中に授受表現の教授法について話す機会を作ってくくださった。

4. 実習経過

実習期間は2022年4月14日から7月28日まで、総計15回であった。毎週木曜日の午後の授業を担当した。初回は見学のために、朝8:55のバスを利用したが、通常は昼13:00のバスを利用してNACに通った。本章では、初回授業とコメント、初回以降の調整、授業準備の過程と授業の流れについて記述する。

4.1 初回授業とコメント

初回の授業は4月14日の午後に行った。準備段階では、TAの劉先輩にアドバイスを伺い、第1回の授業の教案を作成し、鷺見先生に送ってコメントを頂いた。先生のコメントを参考に教案の内容を書き直し、当日まで一人で何回も心の中で流れを暗記したり、言葉遣いを練習したりした。実際に他の人に学生の役を頼んで一回模擬授業をした方がいいが、今回は私一人で参加するので、頼めなかった。

当日午前中に清水先生の授業を見学した後、清水先生に午前中の授業で練習できなかった三つ目の文法項目を午後の授業で順番を変えて先に練習させてほしいと依頼された。清水先生の授業スタイルに応じ、やり方を少し調整した。

初回の授業なので、まず私の自己紹介から始めた。自分の出身地や故郷の名物料理について地図を描いたり漢字を書いたりしながら簡単に紹介してから、ウォーミングアップとして学生に自分の名前・出身地・故郷の料理について紹介するようにさせた。そして、『ことばノート』の復習にはいり、「みんなで話そう！」の部分は直接学生を指名し、他の問題はまず授業で15分ぐらいやらせ、一人ずつ答えを言う形で答え合わせをした。会話を埋める問題は学生をペアに分け、AとBの会話を読む練習をさせ、2ペアに発表させた。「もっと覚えよう！」の部分で、求人チラシの読み方を学習するので、ネットで見つけた本物の求人チラシを学生に見せて、内容について質問した。次に、『文法ノート』の復習で、『本冊』の会話を思い出し、問題を書き、答え合わせをするという順番で進行した。問題の量が多いため、全部をやるのではなく、復習に必要な問題を選んだ。そして、練習できなかった問題の答えをスクリーンショットし、古川先生がwechatで作ったクラスのグループに送った。

当日まで学生に会えなかったのが、初対面の人に授業をするのは少し緊張した。古川先生は授業を見学してくださり、貴重なコメントをくださった。初回の授業が終わった後、よくできたところを含め、改善すべきところについて理由を説明しながらアドバイスをくださった。以

下では初回の改善すべき点を記録し、下に説明や反省などを加える。

①学生に使う言葉はそこまで丁寧にしなくてもいい。

初回の授業ではよく学生に対し、「ありがとうございます」「お願いします」などを口にしていて、まだ頭の中で院生の立場から教師への転換が出来ていなかった。

②学生に話させる時間をもっと増やす。

初回の授業は学生に与えた練習時間が少なかった。時々授業を進めたいと焦ったり、学生が話したいことを代わりに言ってしまったことは良くないと思う。

③時間を効率的に使う。

初回はすべての問題を授業中に学生に書かせたので、授業の時間を無駄にした。次回から練習問題を宿題として出す形に変更した。

④ランダムで指名し、学生に緊張感を与える。

初回は順番で学生を指名していたので、学生はいつ当てられるかを予想し、気が散る傾向があった。

⑤単語の反対語を言わせるとか、漢字を書かせるとか、ことばの復習を面白くする。

⑥学生が書き順を見えるように板書する。

私が板書していた時、よく無意識に目の前の黒板を体で隠してしまう。このクラスに中国人の学生のみならず、漢字に馴染みがない国からの学生もいるので、教師がどのように書いたのを知りたがるため、学生に書き順を見せることも大事である。

⑦語彙コントロールを意識する。

⑧声にもっとメリハリをつける。

4.2 初回以降の調整

古川先生に初回の授業についてのコメントを頂き、鷺見先生とも意見交換した。昨年にNACで実習した先輩たちが、振り返りのためにビデオを撮っていたことを聞き、鷺見先生に録画するのはどうかを相談し、ビデオカメラと三脚を貸して頂いた。第二回から授業をする様子をビデオに残した。三脚をそのまま教室に預かり、毎週ビデオカメラを持って行き帰りしていた。録画したビデオを次の授業までにパソコンでクラウドにアップロードし、鷺見先生に共有してコメントを頂く形で行った。

第二回から授業の流れをいくつか調整した。初回は授業中に問題を書かせたが、第二回から練習問題を宿題として出し、授業で答え合わせと話す練習をすることにした。2の部分の文法に関わる問題だけは、授業当日の午前中に導入するため、午後の授業で書かせる。

第五回から授業のスケジュールを変更した。(1.4の記述と表2を参照)古川先生の授業を見学した後、第五回から自分の授業の流れも少し変更した。自分は学生に話させることがあまり得意ではなく、適切な方法もあまり知らなかった。古川先生の方法を真似し、学生に話さ

せるために、毎回頭を絞ってトピックを考えた。方法がまだ拙いが、練習時間を増やすことをずっと頭の中に入れていた。

また、鷺見先生の提案で、第五回からの教案に「今回の課題」を毎回書いた。課題は振り返りする時、はっきり「できた」「できなかった」とわかる内容のほうがいい。「具体的な行動目標を立てましょう」と鷺見先生にコメントして頂いた。

4.3 授業準備の過程

二回目からの一回の授業を準備する過程について述べる。

まずは、前回のパフォーマンスの振り返りである。ビデオをクラウドにアップロードし、鷺見先生にコメントを頂き、次回の「課題」を発見する。

次に、スライドショー・教案・テスト問題を作成する。スライドショーの内容は問題と解答例、写真、練習するためのイラストなどである。教案には具体的にどんな話し方をするかも書いた。テスト問題は教科書の問題を真似し、前回の言語知識において出題する。

スライドショー・教案・テスト問題を鷺見先生に送り、コメントを頂く。そして、鷺見先生のコメントを参照して指摘のあった点を再考して改善する。（実際にすぐにビデオを送れなかった時が多く、ビデオと次回の教案をまとめて送っていた。）必要だと思えば、直したバージョンをもう一度鷺見先生に送り、コメントを頂く。

授業当日に、昼のバスを利用し、13時20分ぐらいにNACに着き、非常勤講師室のパソコンとプリンターでテスト用紙を印刷する。5分前に教室に着いたら、パソコンとプロジェクターを調整し、スライドを投影する。三脚とビデオカメラを設置し、録画できるように準備する。

それから、授業を行う。次の節では、授業の流れについて記録する。

4.4 授業の流れ

二回目から定着してきた授業の流れを記録する。

表7 授業の流れ

| 活動 | 時間 | 使用教材 | 手順 |
|------|-----|-------|---|
| 小テスト | 10分 | テスト用紙 | <ul style="list-style-type: none">• テスト用紙を配り、テストをする。• 学生が書いている間に机間巡視し、学生の習得状況を把握する。• テストが終わり、用紙を回収する。• 授業後にテストを採点し、（五回目から）当日に用紙を返却する。• 解答例を wechat グループに公開する。 |

| | | | |
|--------|---------|----------|--|
| ことばの復習 | 約 70 分 | 『ことばノート』 | 「みんなで話そう！」 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> • 学生に言葉のグループ分けを聞く。 • ことばに関連する質問をする。 |
| | | | 練習問題 <ul style="list-style-type: none"> • 一人 1 問ずつ答えを聞く。 • 漢字の書き方を確認する。 • ことばの意味用法を確認する。(選択式質問・写真を見せる・列挙させるなど) |
| | | | 「もっと覚えよう！」 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> • 一人 1 問ずつ答えを聞く。 • 一緒にことばを読む。 • 生教材を使用し、言葉の記憶を強化する。 |
| 文法の復習 | 約 100 分 | 『文法ノート』 | <ul style="list-style-type: none"> • 関連性が高い項目があれば、既習した文法を復習する。 • 質問の形式で、接続と用法（使える場面）を復習する。 • 宿題ではない問題なら、書く時間を与える。その間、机間巡視する。 • 一問ずつ答えを聞く。文を作る練習なら、複数の学生に聞く。答えにコメントする。 • 応用する練習をさせる。文法項目によって、異なる活動をする。例えば、自分の生活や周りのことを言わせる・テーマを与えて文を作らせる・場面を想像させ、学生と会話して文法を使わせる・ジェスチャーでヒントを与えるなど |

本章では、実習過程について記録した。次章では、授業評価のために学生に協力してもらったアンケート調査と振り返りを記述する。

5. 授業評価

7月28日に最終回（第15回）の授業を行った。実習を振り返り、学生たちの声を聞き、教授法を改善するために、最終回当日に授業評価アンケートを行った。本章ではアンケートの作成から結果統計まで記述する。

5.1 アンケートの作成

アンケートは学生の気持ちを考えながら作成した。質問を2ページに抑えており、選択式の質問10問、長所と短所を記入する質問と自由記述欄を作った。選択式質問は5段階評価を用い、回答時間を節約するために、選択肢の内容を統一した。1は最高評価、5は最低評価である。

作成した後に、鷺見先生にコメントを頂いた。そして、コメントを参照し、質問を入れ替え、フォントやポイント、振り仮名などを調整した。アンケート用紙は付録として添付する。

5.2 アンケートの実施

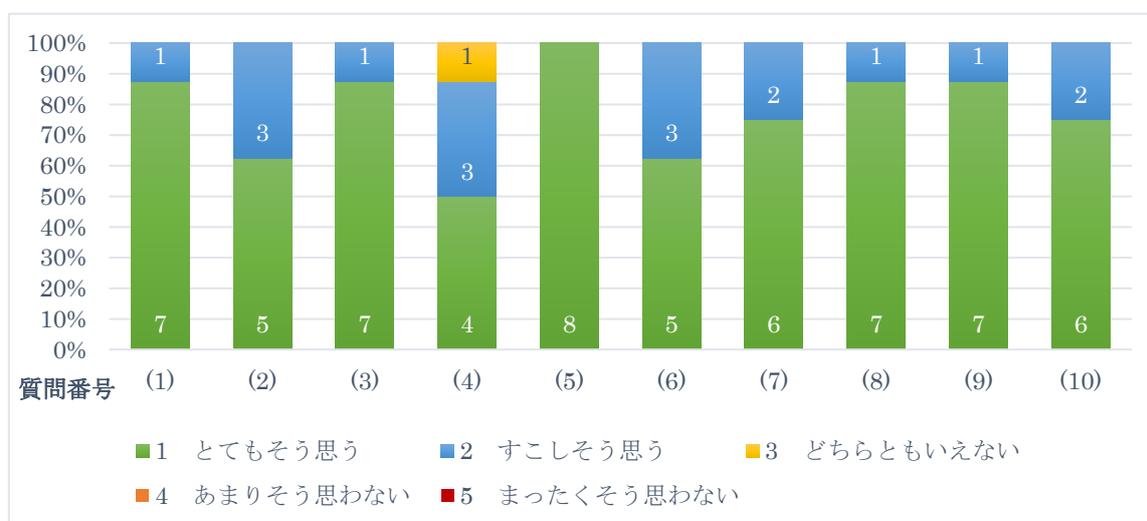
一週間前ぐらいに古川先生と連絡し、最終回の授業で授業評価アンケートをしたいと伝え、許可を頂いた。予め前日にアンケートをプリントし、NACに持っていった。(偶然だったが、その日非常勤講師室のプリンターが故障し、使えなくなったので、予め準備して良かったと思った。)

アンケートは授業の最後の30分に行った。「名前を書かなくてもいいです。皆さんが書いている時に見ません。」と学生に伝えたが、省みると、当時「日本語で書けなければ、他の言語を使っても大丈夫です」と一言を伝えておけば良かったと感じている。日本語能力の原因で伝えられなかったこともあるかもしれないと思う。

5.3 結果統計

本節では、授業評価アンケートの結果について記録する。

まず、選択式質問の回答を、以下のグラフに示す。全員参加したため、総人数8人である。棒の中にある数字はその選択肢を選んだ人数である。



結果から見れば、質問の(1)・(3)・(5)・(8)・(9)は学生から高評価を得た。それぞれ対応している項目は授業への参加意欲・板書とスライドのわかりやすさ・学生の理解度の確認・教師

の授業態度・授業内容の実用性である。質問の(2)・(6)・(7)・(10)は半数以上の学生が高評価を与えたが、また学生に改善すべきところがあると思われる。それぞれ教師の声と言葉選び・指示の出し方・質問や意見を話しやすい雰囲気・授業満足度に対応している。質問の(4)は相対的に低い評価を得た。これは授業の時間配分に関わる質問である。

表8は自由記入の内容をまとめたものである。学生のアルファベットは統計しやすいためにランダムでつけたのであり、出席番号ではない。「#」は学生が記入しなかったことを指す。

表8 授業評価アンケートにおける自由記入内容の統計

| 学生 | 良い点 | 改善すべき点 | 自由記述欄 |
|----|------------------------------|------------------------------------|---------------|
| A | 授業は理解できます。 | 時間配分 | # |
| B | 私たちに考えさせます。 | # | # |
| C | やさしい、声が大きいい、援 (誤字)業がとてもいい | なし | なし |
| D | 熱心に授業をする 授業の時間配分がよくて | 授業がもっと面白くなればもっといい | 先生頑張ってください!!! |
| E | 質問の説明がはっきりしています | 授業が面白くない。 | # |
| F | 知識点讲得很清楚!(要点がはっきり説明されました!) | 希望多讲点知识, 衍生的知识!(もっと関連知識を教えて欲しいです!) | # |
| G | # | # | # |
| H | 先生はとても熱心です。 | ありません。 | ありがとうございました。 |

アンケートの内容をまとめて見れば、今回の実習は授業態度、説明のわかりやすさなどのところが学生に良い点だと思われていた。一方で、時間配分についてはあまりよく出来ていないと評価された。この点について私自身、自覚がある。文法項目の復習を全部やりきれなかった授業は何回もあった。また、授業の面白さも欠けていると評価された。私がNACの先生の授業を見学した経験から見れば、確かに先生方々の授業は面白かった。役者みたいに色々な場面を演じたり、学生の発言を拾って面白いコメントを与えたりしていた。私の授業はとても比べものにならなかった。

5.4 振り返り

最後に、実習を振り返り、全体的に各方面からまとめる。初回の授業から、鷲見先生や古川先生にたくさんのコメントを頂き、自分で気づきにくい不足を指摘して頂いた。アドバイスを

受け止め、課題を意識して改善すると、授業の効果がだいぶ良くなったと思う。効果がいいやり方も使えるようになって、初回の授業で現れた良くない癖もいくつか直した。

声と話し方の面から見ると、だいぶよくできていたと思う。声が元気でよく通るのは特に意識しなくても自然にできるのは自分の良さだと思う。なるべく学生に馴染みがない言葉を使わないことはいつも意識しており、使わなければならない時、必ず板書して簡単に説明する。まだよく出来ていなかったのは、話し方にメリハリをつけることだと思う。

板書は最初に良くない癖があったが、その後は直したと思う。スライドのレイアウトや書き方を毎回良く考えたので、学生に分かりやすかったと思われる。但し、書き間違えたところに気づけず、時々そのまま黒板に残ってしまったことがある。

質問と指示の出し方が最初の何回かの授業は良くなかった。授業見学を通して古川先生の方法を真似したり、鷺見先生に指導を頂いたりしているうちに、最初よりできるようになった。学生の理解度を口頭で確認することはいつもしているが、まだ学生の表情から読み出す力が弱いと思う。まだ話している内容にミスがないように気をつけている段階におり、話しながら学生の表情を観察する余裕がなかった。他に改善すべき点は、学生が質問や意見を述べやすい雰囲気を作ることがよく出来ていなかったところである。勉強熱心の学生が質問してきたりしたことがあるが、自分をもっと積極的に質問と意見を求めるべきだったと思う。

時間配分はあまり良くてきていなかった。復習の授業とはいえ、やり残した部分があれば、学生の満足感や達成感が下がることがわかった。

(6) 授業担当者（陳）の質問と指示の出し方がわかりやすかったです。

1 2 3 4 5

(7) 授業担当者（陳）は、学生が質問や意見を述べられるようにしました。

1 2 3 4 5

(8) 授業担当者（陳）は、熱心に授業を行っていました。

1 2 3 4 5

(9) この授業の復習や練習は役に立ちました。

1 2 3 4 5

(10) 私は、木曜日 3 限／4 限の授業に満足しています。

1 2 3 4 5

II. 授業担当者(陳)の授業の良い点と改善すべき点があれば、書いてください。

| |
|---------|
| 良い点： |
| |
| |
| |
| 改善すべき点： |
| |
| |
| |

自由記述欄（言いたいことを自由に書いてください）

| |
|--|
| |
|--|

第 2 部 上海外国語大学での日本語教育実習

日本語教育学分野前期課程 2 年
譚 斯琪・徐 曼

1 概要

本章では、2022 年度上海外国語大学での教育実習の概要を述べる。実習の参加者、実習の内容、実習の流れとスケジュール、実習の特徴について記述する。

1.1 実習の参加者

担当実習生は名古屋大学・人文学研究科・日本語教育分野博士前期課程 2 年に所属する学生 2 名で、指導教員は名古屋大学・人文学研究科・准教授鷺見先生である。なお、2022 年教育実習の事前準備としての 2021 年秋学期<日本語教育基礎実習 b>の授業には、TA として名古屋大学大学院人文学研究科・人文学専攻・日本語教育分野・博士後期課程 2 年の 1 名の方と、博士後期課程 4 年の 1 名の方に参加していただいた。また、2022 年教育実習の具体的に準備にあたる企画書などの準備には、名古屋大学大学院人文学研究科・人文学専攻・日本語教育分野・博士後期課程 1 年の 1 名の方に参加していただいた。

実習生 (2 名) : 譚 斯琪 (中国) 徐 曼 (中国)

TA (3 名) : 南 明世 (日本) 劉 嘉勇 (中国) 王 淋萱 (中国)

上海外国語大学・日本文化経済学院准教授伏泉先生にも大変お世話になった。実習授業に参加した学生は、上海外国語大学・日本文化経済学院の学部 2 年生、合計 18 人である。最後に修了証書を取った学生は 14 人である (80 点以上)。

1.2 実習内容

今回の日本語教育実習は、授業準備とオンライン授業実習の 2 部分からなっている。2021 年の秋学期は、教育実習のために、教案・教材の作成を中心に勉強した。春休みの時に、実習授業のテーマを決め、自分たちでオリジナルな教材を作成した。2022 年の春学期に、オンライン実習コースを開始し、上海外国語大学の日本語学習者に対し、サブカルチャーという話題をコースのテーマにして授業を行った。

1.3 実習の流れ

今回の実習の主な流れは表 1 の通りである。

表 1 実習の流れ

| | |
|----------------------|---|
| 2021年10月～ 2022年2月 | 教育実習に向けた指導項目の分析、授業デザイン、教案・教材作成の練習 |
| 2022年3月 | 実習がオンラインになった場合に開設するコースのためにコース・デザインをし、企画書を作成する。 |
| 2022年3月29日 | 鷺見先生から企画書を修正 |
| 2022年3月20日 | 企画書を修正して再提出し、鷺見先生経由で伏先生に企画書を送る。 |
| 2022年4月26日 | 当初は5月にコースを開設する予定であったが伏先生より実習授業開始を延期したほうがいいとのアドバイスを受ける。コロナの影響により上海市で外出制限がかけられる中、学生たちがオンライン授業に疲弊している可能性があるため、実習授業を延期したほうがいいとのアドバイスを受ける。 |
| 2022年5月5日 | 実習授業の開始日の確認・学生募集のためのチラシ作成・伏先生へ送付 |
| 2022年5月～6月 前半 | 教案の作成と修正 |
| 2022年6月18日 | 第一回オリエンテーション |
| 2022年7月11日 | 導入授業 |
| 2022年7月12日 | コマ1・聖地巡礼 |
| 2022年7月15日 | コマ2・コスプレ |
| 2022年7月19日 | コマ3・オタク |
| 2022年7月22日 | コマ4・オタク |
| 2022年7月26日 | コマ5・古着 |
| 2022年7月29日 | コマ6・古着 |
| 2022年8月2日 | 学生発表 |
| 2022年8月4日 | アンケート配布 |

1.4 授業のスケジュール

授業のスケジュールは表2の通りである。

最初は、毎回の授業時間を1時間に設定したが、実際に授業をした際には、1時間を超えてしまう場合がほとんどであった。最初から1時間半に設定すべきだったと考える。

表 2 授業のスケジュール

| 日付 | 担当者 | タイトル | 時間 |
|-----------|-----|------|-------------|
| 2022/6/18 | 譚、徐 | 説明会 | 19:00~20:00 |
| 2022/7/11 | 譚、徐 | 導入授業 | 19:00~20:00 |

| | | | |
|-----------|------------|-----------------------|-------------|
| 2022/7/12 | 譚、徐 | 「聖地巡礼」、及びそれがもたらした経済効果 | 19:00~20:00 |
| 2022/7/15 | 徐 | コスプレ文化について | 19:00~20:00 |
| 2022/7/19 | 譚 | 日本におけるオタク文化 | 19:00~20:00 |
| 2022/7/22 | 譚 | オタク文化のもたらす消費行為や経済効果 | 19:00~20:00 |
| 2022/7/26 | 徐(主)、譚(サブ) | 日本における古着ブーム | 19:00~20:00 |
| 2022/7/29 | 徐(主)、譚(サブ) | 古着ブームの裏側に高まる若者の環境意識 | 19:00~20:00 |
| 2022/8/2 | 譚、徐 | 日本へサブカルチャーを体験に行きましょう | 19:00~20:40 |

1.5 実習の特徴

今回の実習は主に以下のような特徴がある。

担当実習生は二人である。担当実習生の国籍は中国であり、母語は中国語である。参加者は全員中国人であるが、授業全体が日本語を使って行われていた。(最初の説明会は学生たちに理解できない部分について中国語で説明したが、それ以外は全て日本語で授業を進めた。)

(1) 実習生二人の協調性が高い

今回の実習は、教材の作成から授業の開講まで二人が協力して完成した。元々は毎回の授業を説明会のように二人で担当するつもりであったが、徐さんの日本入国のための移動と重なり、全ての授業をこのような形で進めることができなかった。準備段階では想定していない状況ではあったが、二人の協力によりスケジュールを変更することなく、授業を行うことができた。

(2) オリジナルな授業

実習授業のテーマは、サブカルチャーという若者の興味深い話題を選んだ。教材を作成する時、文章だけでなく、イラスト・動画などの生教材も多く活用した。コスプレ、オタク、古着などのサブカルチャーを話題にした授業は大学での日本語授業と大きく異なるを考える。

(3) 参加者の積極性が高い

学生さんが積極的に授業に参加し、宿題も真面目に完成して提出した。最初は学生さんが質問に答えてくれるかを非常に心配していたが、実際の授業の際に、皆さん積極的にチャットで答えてくれた。少し足りないところと言えば、もし直接にマイクで答えてくれればよりアウトプットできると考える。また、最後の発表も、学生の皆さんが真面目にスライドを作り、説明した。

(4) 修了証を出したこと

実習生から参加者に成績評価をして、80点以上を取る方は上海外国語大学から修了証を出

した。

2. 準備とその流れ

2.1 コースの作成

今年は昨年と同じコロナの影響で上海に行けず、オンラインで授業を実施した。去年先輩達の経験があって授業の準備をうまく進めることができた。授業のテーマは春休みに決めた。最初は茶道・着物などの日本伝統文化の話題をしたかったが、二人で色々検討して、そのような授業が日本語専門の学生にとって目新しくないと考え、最終的にコスプレ・オタク・古着などの若者にとって興味深いサブカルチャーを授業のテーマにし、以下のようなコースを企画した。

2.1.1 授業の目標

受講生の読む、聞く、話す、書く能力を高めるとともに、サブカルチャーの学習を通して日本の文化に興味を持たせる。

①導入授業：サブカルチャーへの導入。サブカルチャーの定義や歴史を勉強することで、それに対する理解を深め、読む能力を向上させる。

②コマ1:聖地巡礼に関する文章を読むこと、動画を見ることで、それのもたらした経済効果を知り、読む・聞く能力を鍛える

③コマ2:コスプレに関する文章を読むこと、動画を見ること及び質問に答えることで、読む・聞く・話す能力を向上させる。

④コマ3・コマ4:コスプレに関する文章を読むこと、動画を見ること及び質問に答えることで、読む・聞く・話す能力を向上させる。

⑤コマ5・コマ6:「古着文化」に関わる文章を読むこと、動画を見ること及びディスカッションをすることで、読む・聞く・話す能力を向上させる。

⑤最終発表：グループ活動と発表を通して、協学や創造能力を高める。

「日本へサブカルチャーを体験に行きましょう」というテーマの旅行ツアーを作ることで、サブカルチャーに対する理解をより深くすることができる。

2.1.2 授業のプログラム

(1) 第一回オリエンテーション（関心のある学生向け）：学生募集

①自己紹介

②コースのテーマ、目的、スケジュールの説明

③授業の留意点の説明

(2) 導入授業（受講生向け）：

- ①サブカルチャーというテーマについての簡単な紹介
- ②サブカルチャーの定義や発展を知る
- ③最終発表・評価の方法の説明

(3) オリジナル教材・日本におけるサブカルチャー

★コマ1:「聖地巡礼」、及びそれがもたらした経済効果

△教材:サブカルチャーを紹介する記事、“聖地巡礼”に関わる動画

△インプット:リーディング、リズニング

聖地巡礼の魅力やそれのもたらした経済効果を知り、他産業への影響を理解する

△アウトプット:スピーキング

授業の質問に答える

宿題:自分で一つのアニメの断片を選んでアフレコをする。

★コマ2:コスプレ文化について

△教材:コスプレの歴史を紹介する記事、コスプレのイベントに関する動画

△インプット:リーディング、リズニング

コスプレの発展のルーツと歴史を理解する、コスプレの魅力を知る

△アウトプット:スピーキング

授業の質問に答える;

宿題について紹介する

★コマ2:日本におけるオタク文化

△教材:オタク文化を紹介する記事

△インプット:リーディング

オタクのイメージ転換を知る、オタク文化の由来や発展について勉強する

△アウトプット:スピーキング

宿題について紹介する、授業の質問に答える

★コマ3:オタク文化のもたらす消費行為や経済効果

△教材:オタク文化のもたらす消費行為・経済効果に関する記事、動画;『広辞苑』

△インプット:リーディング、リズニング

オタク人口の増加及びそれがもたらす多額の消費を理解する、具体的な消費行為を知る

△アウトプット:スピーキング

宿題について紹介する授業の質問に答える

★コマ5:日本における古着ブーム

△教材:古着屋の歴史を紹介する記事、古着のメリットをアピールする記事、古着のメリット・デメリットや魅力を紹介する動画

△インプット:リーディング、リズニング

古着屋の歴史について勉強する

古着のメリットや魅力を知る

△アウトプット:スピーキング

授業の質問に答える;

宿題について紹介する

★コマ6:古着ブームの裏側に高まる若者の環境意識

△教材:衣類ロスが引き起こす環境問題を報告する記事、古着が環境に優しいファッションを報告する記事と動画

△インプット:リーディング、リズニング

衣服ロスとそれが引き起こす環境問題を意識する,古着ブームに見えた若者の環境意識を理解する

△アウトプット:スピーキング

記事を読み、なぜ古着が段々注目されているかを自分の言葉でまとめる
宿題について紹介する

★最終発表(90分)

4~5人のグループに分け、「日本へサブカルチャーを体験に行きましょう」というテーマの旅行ツアーを作って、pptで紹介する形で発表する。

2.2 実習先教員の協力

今回の実習期間は、伏先生と相談して決めた。元々は5月に実習授業を行いたかったが、その時、上海はコロナ禍の厳しい状況にあり、オンライン授業を行ういいタイミングではないと伏先生がアドバイスしてくださった。また、伏先生は学生さんの試験期間を共有してくださったため、授業の時間を試験後に設定した。実習授業の時間を決めたあとで、伏先生から私達の作ったチラシを学生に配布していただいた。伏先生の協力で、学生募集がうまく進んだ。

2.3 学生募集

第一回オリエンテーションの2週間前に(6月4日)、伏先生からチラシを学生に配布してもらい学生募集を行った。その時、20名の学生さんが応募してくれた。第一回オリエンテーションに参加した学生は16名であり、その後、wechatグループに入ったのは19名であった。しかし、時間が合わないせいで途中で3名の学生がやめた。

3. 実習

本実習の課程は、オリエンテーション、導入授業と6つのコマに分かれ、それぞれ読む練習、書く練習、聞く練習を中心としている。最終回は学生発表である。具体的には以下に記述する。(実習前に、教案を作ったが、実習に入ってから探した新しい資料を使って教案を書き直した。以下に書き直した教案を記述する。)

3.1 オリエンテーション

参加者:16人

担当者:譚斯琪 徐曼

内容(流れ):

1. 担当者自己紹介

2. 「あなたはサブカル人間？」 についてのアンケート調査
3. コースの概要
4. 授業のスケジュール
5. 成績の評価
6. 注意事項
7. 申し込み方法と連絡先
8. 質疑応答

まとめ

二人が緊張していて、ずっと硬い敬語を使っていて、説明会の雰囲気は堅苦しくて、あまりよくなかった。また、二人が一方向的に説明していて、学生達とのインターアクション少なかった。

3.2 導入授業

参加者：15 人

担当者：譚斯琪 徐曼

内容（流れ）：

1. サブカルチャーを簡単に紹介
2. これからの授業についての紹介
3. 発表についての紹介

まとめ

この導入授業は主にサブカルチャーの定義やサブカル人間の特徴を紹介した。前回説明会の経験があって、導入授業では二人が前回より落ち着くようになった。質問する時、学生さんも積極的にチャットで答えてくれて、授業の雰囲気が段々良くなった。

3.3 コマ1 「聖地巡礼」、及びそれがもたらした経済効果

参加者：15 人

担当者：譚斯琪 徐曼

教案内容：

| 時間 | 活動 | 目的 | 授業形態 | 教材 | 手順 | 指示 | 留意点 |
|----|----|----|------|----|----|----|-----|
|----|----|----|------|----|----|----|-----|

| | | | | | | | |
|-----|---------------------|---------------------------------|------------|------------|--|--|--------------------------------------|
| 10分 | ウォーミングアップ | テーマに興味を持たせる | T⇄S | ppt | ①教師が学生にロケ地の写真を見せる。 ②教師から質問を出して学生をあてる。 ③教師から写真をそれぞれに対応するアニメとアドレスを紹介する | 「この写真を見た後、どのアニメのシーンを思い出しましたか？」 | まずは学生達から自由に答える 答える人いない場合、教師から指名する |
| 10分 | 読解:「聖地巡礼とは何か」の文章を読む | ①読む能力を高める ②「聖地巡礼」の定義を知る | T⇄S S⇄S | Pdf ppt | ①学生を指名して文章を朗読させる。②教師から文章の内容について学生に質問する。③重要な文法を補充して説明する。 | 「〇〇さん、この段落を読んでください」(3名ぐらいの学生を指名する) (読んでから)「〇〇さん、自分の言葉で聖地巡礼とは何かをまとめてください。」 また、教師から内容について質問応答をします。 | 学生達の様子を確認したり、学生をサポートしたりする。 |
| 15分 | 聖地巡礼に関する動画を見る | ①聞く能力を高める②話す能力を高める | T⇄S | 動画とppt | ①聖地巡礼の動画を流す。②教師から質問する。 | 「聖地巡礼をした経験がありますか」「日本に来たら、聖地巡礼をしたいところがありますか」「聖地巡礼の魅力は何だと考えますか」 | |
| 10分 | 読解:「聖地巡礼」の魅力の文章を読む | ①読む能力を高める ②「聖地巡礼」の魅力をさらに理解する | T⇄S S⇄S | Pdf ppt | ①学生を指名して文章を朗読させる。②教師から文章の内容について学生に質問する。③重要な文法を補充して説明する。 | 「〇〇さん、この段落を読んでください」(3名ぐらいの学生を指名する) 「〇〇さん、「聖地巡礼」の魅力は何？」 また、教師から内容に | 学生の様子を確認したり、学生をサポートしたりする。 |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--------------|--|
| | | | | | | ついて質問応答をします。 | |
|--|--|--|--|--|--|--------------|--|

授業まとめ

今回は、二人が協力して授業を担当した。今回の授業は、主にアニメをめぐって、アニメから流行っている「聖地巡礼」という現象について一緒に勉強した。

授業の最初は、アニメの聖地の写真を展示し、学生達にアニメのタイトルを答えてもらって授業の話題を導入した。学生達の中にはアニメファンが多くて、写真を見たらアニメの名前をすぐ答えてくれた。次の読解のタスクに入ると、全体的にはうまく進んできたが、不十分な点もあったと考える。まずは、学生に黙読する時間を与えるのを忘れてしまった。また、文法や単語を説明する時、二人が一方向的に説明しすぎ、学生達の産出が少なかった。これらは次回の授業で改善すべきところとして反省した。

3.4 コマ2 コスプレ文化について

参加者：15人

担当者：徐曼

教案内容：

| 時間 | 活動 | 目的 | 授業形態 | 教材 | 手順 | 指示 | 留意点 | 例文 |
|----------|---------------|----------------------|------|---------|------------------------------------|---|----------------------------|---|
| 15分 | ウォーミングアップ | ①テーマに興味を持たせる②宿題のチェック | T⇔S | 動画とppt | ①質問をする②動画を見る。③動画の内容について質問する。 | まず、質問をして答えを数えます。自分の状況を確認した上で、日本のコスプレのイベントはどのような感じかと確かめます。 | 答えを数えて、PPTに人数を書く。 | 質問リスト:1) コスプレに興味があるか? 2) コスプレのイベントに参加したことがあるか? 3) 興味を持って参加した4) 私服で参加するか、変装で参加するか? |
| 20 - 25分 | 教材「コスプレの発展のルー | ①読む能力を高める②単語や文法を学ぶ | S⇔S | Pdf ppt | ①教材「コスプレの発展のルーツと歴史を知る」を読む。②先生が簡単に教 | 学生の名前を呼び、教材「コスプレの発展のルーツと歴史を知る」を読みま | 事前に知らない単語の発音を想定して、単語の上に示す。 | |

| | | | | | | | | |
|-----|-------------|----------------------------------|------------|-----------|--|---|------------------|----------------------------|
| | ツと歴史を知る」を読む | | | | 材の内容をまとめる③重要な単語と文法を日本語で説明する。④内容について教師から質問する。 | す。質問を聞いてください。 | 内容を三つに分けてテーマをする。 | |
| 15分 | 視聴とディスカッション | ①聞く能力を高める ②話す能力を高める | T⇔S S⇔S | 動画 ppt | ①質問をする②動画を流す。③答えを確認する | まず、質問を聞いて、あとで、ここ(ppt)に書いてある質問に答えてもらいますので、考えながら聞いてください。動画を流した後、学生の名前を呼びます。 | 口頭で確認する | 質問：コスプレの魅力・いいところは何かと思いますか？ |
| 5分 | クイズをする | 自分に合ったコスプレを通してコスプレにもっと興味を持つことになる | T⇔S | クイズ | ①質問をする②答えを確認する③自分にあったコスプレを読む | まず、質問を聞いてください。考えず、自分の直感に答えてください。名前を呼び、自分に合ったコスプレを読んでください。読み終わったら、自分にふさわしいかと確認します。 | | 質問：これは本当に合っていますか。 |

授業まとめ

今回はサブカルチャーに属するコスプレ文化について勉強する授業である。コスプレがとても流行っているので、みんなが興味を持つと想定したが、半数の人は興味がないと答えた。興味を持っている7人は、3人だけコスプレのイベントに参加したことがあり、そして、全員私服で参加したということであった。授業の最初はそういう答えをもらったとき、後の授業は順調に進むかとすごく不安だった。しかし、コスプレの歴史と発展について勉強するとき、学生たちの反応を見て安心した。また、授業の最後に、「自分に合ったコスプレ」というクイズをやったときは、正当の学生が多かったのも、コスプレに興味を持っていない人も、だんだん興

味を持つようになったのではないかと思う。

今回の授業はビデオを見て、学生たちにビデオの内容について質問に答えてもらうパターンであったが、ビデオを流す前に、質問を提示しなかったため、学生たちは聞き取るのが難しかったかもしれない。結果は良かったが、正しい指示をすることを忘れないように、今後気をつける。また、自分が一方的に話す場合が多いので、学生たちの参加度が低くなったことを注意しなければならない。

授業の前に、時間を計算したが、実際に授業をするときに、学生たちにもっと発言させるために、一人一人の名前を呼び、質問をすることになった。質問を答える人数を想定するのは重要だと認識した。

3.5 コマ3 日本におけるオタク文化

参加者：15人

担当者：譚斯琪

教案内容：

| 時間 | 活動 | 目的 | 授業形態 | 教材 | 手順 | 指示 | 留意点 |
|--------|------------------------|---|------------|-----|---|--|-----------------------------------|
| 5-10分 | ウォーミングアップ | テーマに興味を持たせる | T⇄S | ppt | オタクの内容について質問する | 質問①「オタクという、どのようなイメージがありますか」質問②「自分がオタクだと思いますか」 | 想定：オタクについて間違えて理解している。→オタクの定義を紹介する |
| 20-25分 | 読解：「オタクに対するイメージの変化」を読む | ①読む能力を高める ②単語や文法を学ぶ ③オタクに対する認識を深くする | T⇄S S⇄S | pdf | ①学生を指名して文章を朗読させる。②教師から文章の内容について学生に質問する。③重要な文法を補充して説明する。 | 「00さん、この段落を読んでください」(3名ぐらいの学生を指名する) 「00さん、平成に入ると、オタクがどのように変化してきたのか？意味や領域から自分の言葉で教えてください」 | 学生の様子を確認したり、学生をサポートしたりする。 |

| | | | | | | | |
|--------|---------------------|--|------------|-----------------|---|--|---------------------------|
| 20-25分 | 教材「オタクの文化の由来や発展」を読む | ①読む能力を高める ②単語や文法を学ぶ ③オタクの文化の由来や発展を知る | T⇄S S⇄S | Pdf と ppt | ①学生を指名して文章を朗読させる。②教師から文章の内容について学生に質問する。③重要な文法を補充して説明する。 | 「〇〇さん、この段落を読んでください」(3名ぐらいの学生を指名する) 「〇〇さん、なぜ昔は「隠れオタク」が多かったのか？自分の言葉で教えてください」 「〇〇さん、「オタク」に対する判断の仕方がどのように変化しましたか？自分の言葉でまとめてください」 | 学生の様子を確認したり、学生をサポートしたりする。 |
| 5-10分 | クイズをする | オタクについて確認する | S⇄S | 動画 と ppt | ①動画を流す ②自分のオタク年齢を計算する | まず、動画を見てオタクについて知ったことを応用して、クイズをやりましょう。「みなさんがオタクか」 | 完成できない部分は授業後でやってもいい。 |

授業まとめ

今回の授業は、徐が移動中なので、譚が一人で授業を担当した。授業のテーマは、オタク文化という日本の代表的なサブカルチャーである。オタクという言葉が中国でも結構流行っていて、皆知っているものであるが、学生達に「自分のオタクに対するイメージ」を聞けば、「家にこもっている」「社交的型ではない」などのネガティブなイメージが強い。また、「チェックシャツを着ている」「メガネをかけている」という外見から判断する人も少なくなかった。「オタクに対するイメージの変化」という文章を勉強することで、皆さんのイメージも段々変わってきた。

授業の時間が大分オーバーしてしまったので、最後の文章と動画は宿題とした。

3.6 コマ4 日本におけるオタク文化

参加者：14人

担当者：譚斯琪

教案内容：

| 時間 | 活動 | 目的 | 授業形態 | 教材 | 手順 | 指示 | 留意点 |
|----|----|----|------|----|----|----|-----|
|----|----|----|------|----|----|----|-----|

| | | | | | | | |
|--------|---------------------|------------------------|-----|---------|---|---|---|
| 5分 | ウォーミングアップ | テーマに興味を持たせる | T⇔S | ppt | 授業で残ってしまったクイズの結果を確認する。 | みなさん、前回の授業で残したクイズをやりましたか。「みなさんがオタクですか」「では、自分のオタク年齢は何歳でしたか。 | 想定1：全員オタクです。 想定2：全員若いオタクです。 →どうして全員オタクかという質問して本題に入る |
| 20-25分 | 教材「オタク人口は増加している」を読む | ①読む能力を高める ②単語や文法を学ぶ | S⇔S | Pdfとppt | ①自分で文章を黙読する。②わからないところがあったら、メモして教師に質問する。③重要な文法を補充して説明する。④学生を指名して朗読させ、内容について教師から質問する。 | 「みなさん、自分でこの文章を黙読してください。」 (黙読してから) 「〇〇さん、この段落を読んでください」 「〇〇さん、自分がオタクだと思いますか？ なんのオタクに属すると思いますか。」 | 学生の様子を確認したり、学生をサポートしたりする。 |
| 10分 | 視聴とディスカッション | ①聞く能力を高める ②話す能力を高める | T⇔S | 動画とppt | ①動画を流す ②動画の内容について質問する | みなさん、動画を見て「痛部屋とは何ですか、知っていますか」 「このような痛部屋に泊まりたいですか。」 | 想定1：知っている。具体的なことを紹介してもらう。 想定2：知らない。 次の内容に進む。 |
| 20-25分 | 教材「オタクの具体的な消費行為を知る」 | ①読む能力を高める ②単語や文法を学ぶ | S⇔S | Pdfとppt | ①自分で文章を黙読する。②わからないところがあったら、メモして教師に質問する。③重要な文法を補充して説明する。④学生を指名して朗読させ、内容について教師から質問する。 | 「みなさん、自分でこの文章を黙読してください。」 (黙読してから) 「〇〇さん、この段落を読んでください」 「〇〇さん、「痛部屋」「痛車」「痛ネイル」…なぜ「痛～」を付け | 学生の様子を確認したり、学生をサポートしたりする。 |

| | | | | | | | |
|--|----------|--|--|--|--|-----------|--|
| | を 読 む | | | | | ると思いますか。」 | |
|--|----------|--|--|--|--|-----------|--|

授業まとめ

今回の授業は、譚が一人で担当した。前は日本のオタク文化を紹介することで皆さんのオタクに対するイメージを変わらせた。今回は、さらにオタク文化がもたらした具体的な消費行為や経済効果について勉強した。

今回も授業の内容に関わる動画を用意したが、動画を流す時、事前に導入の話を準備するのを忘れてしまい、いきなり動画を流したのは今回の足りない点と考える。また、授業の「始め方」と「終わり方」をもっと工夫すればよかったと思う。特に授業の終わる時、いきなりに終わった気がした。少し今回の授業の内容をまとめればよかったと思う。これから注意する。

3.7 コマ5 日本における古着ブーム

参加者：12人

担当者：徐曼(主) 譚斯琪(サブ)

教案内容：

| 時間 | 活動 | 目的 | 授業形態 | 教材 | 手順 | 指示 | 留意点 | 例文 |
|-----|--------------|-------------------------------|------|------------|---|---|--|--|
| 5分 | ウォーミングアップ | ①テーマに興味を持たせる | T+S | ppt | 1) 質問してから、教師から指名して答えてもらう 2) 古着屋の写真をみる | 質問を聞いて、三つの選択肢の中で一つを選んでください。 古着屋の写真を見て確認してください。 | 想定した答えを選択肢にして、PPTに書いておく。 | 質問リスト: 1) 要らない服はど うするか? 2) 古着屋が知っている? 行ったことある? 3) 古着にどのようなイメージを持っているか? 4) 古着を買ったことがあるか? |
| 20分 | 教材「古着の歴史」を読む | ①日本語の文型や単語を学ぶ ②古着屋の歴史を紹介する | T+S | Pdf ppt | ①教材「古着の歴史」を読む。②先生がマインドマップで教材の内容をまとめる ③重要な単語と文法を日本語 | 学生の名前を呼び、教材「古着の歴史」を読んでください。 | 事前に知らない単語の発音を想定して、単語の上に示す。 学生と一緒に教材の内容を | |

| | | | | | | | | |
|-----|----------------------|---------------|------------|------------|---|--|----------------------------|------------------------|
| | | | | | で説明する。④内容について教師から質問する。 | | 確認しながら、マインドマップを作る。 | |
| 20分 | 視聴とディスカッション | 聴解能力や話す能力を鍛える | T⇌S S⇌S | 動画 ppt | ①質問をする ②動画を流す ③答えを確認する | まず、質問を聞いてください。このあと、ここ(ppt)に書いてある質問に答えてもらいますので、考えながら聞いてください。動画を流した後、学生の名前を呼びます。 | | 質問：古着のメリットとデメリットは何ですか。 |
| 15分 | 教材「ファストファッションと古着」を読む | 読解能力を鍛える | T⇌S | Pdf ppt | ①教材「ファストファッションと古着」を読む ②先生が簡単に教材の内容をまとめる ③重要な単語と文法を日本語で説明する。④内容について教師から質問する。 | 学生の名前を呼び、教材「コスプレの発展のルーツと歴史を知る」を読みませう。質問を聞いてください。 | 事前に知らない単語の発音を想定して、単語の上に示す。 | |
| | | 宿題のチェック | | | | | | |

まとめ：

今回の教材は古着の歴史について勉強する授業である。覚えやすいように、学生たちと一緒に歴史の発展と変化について、マインドマップを作ることにした。次の授業でもう一回確認するつもりで、マインドマップの形で教材の内容を理解するのはいいかと確認する。最初は学生たちの名前を呼んで質問に答える形であり、だんだん学生たちが自ら積極的に質問を答えるようになった。これは非常によい進歩だと思う。学生に例文を作らせるときに、例文の正しさを判断しにくかった。鷺見先生のアドバイスにしたがって、次の授業で一部の例文を出して、他の部分を補充する形で試すことにする。

3.8 コマ6 古着ブームの裏側に高まる若者の環境意識

参加者：12人

担当者：徐曼(主) 譚斯琪(サブ)

教案内容：

| 時間 | 活動 | 目的 | 授業形態 | 教材 | 手順 | 指示 | 留意点 | 例文 |
|--------|--------------------------------|------------------------|------|------------|--|--|----------------------------|--|
| 5分 | ウォーミングアップ | テーマに興味を持たせる | T+S | ppt | 古着の内容について質問する | 前回の授業で「いない服があったら、どのように処理するか」と聞いたが、「必要な人に送る」という選択を選ぶ人が多い。この問題をもう一度チェックして質問をする。また、勉強した古着屋の歴史を確認し、循環性世界の資源は有限だという答えを引き出す(質問リストの順番で質問する) | 前回の内容を3人で確認する。 | 質問リスト： 1) なぜいらない服を必要の人に送る？ 答え：要らないものを再利用するという意識 2) どのようなマイナスの影響があるか |
| 20-25分 | 教材「衣服ロスとそれが引き起こす環境問題を意識させる」を読む | ①読む能力を高める ②単語や文法を学ぶ | S+S | Ppt pdf | ①教材「衣服ロスとそれが引き起こす環境問題を意識させる」を読む。②先生が簡単に教材の内容をまとめる③重要な単語と文法を補充して説明する。④内容について教師から質問する。 | 学生の名前を呼び、教材「衣服ロスとそれが引き起こす環境問題を意識させる」を読んでもらい。 | 事前に知らない単語の発音を想定して、単語の上に示す。 | |

| | | | | | | | | |
|----------------|---------------------|---|------------|------------|------------------------------|---|---|--|
| 15- 20 分 | 視聴と ディスカ ッション | ①聞く能力を 高める ②話す能力を 高める | T&S S&S | 動画 ppt | ①質問をする ②動画を流す ③答えを確認する | まず、対策があるか と学生たちに聞き ます。学生たちの答 えをまとめて、ビデ オの対策と同じか という意識を持っ てビデオを見ます。 「今から動画を流 します。あとで、こ こ(ppt)に書いてあ る質問に答えても らいますので、考え ながら聞いてくだ さい」 動画を流した後、学 生の名前を呼びま す。 | 事前に三つの 答えを書いて、 聞き取れるか と確認します。 | 質問：1) 対策 があるか2) 衣 服ロスエリさん の環境のための 主な取り組みは どのようなもの か？ |
| 20- 25 分 | 教材を読 む | ①書く能力を 高める ②話す能力を 高める ③読む能力を 高める | T&S | Pdf ppt | ①教材を読む。②質 問をする。 | みなさん、なぜ古着 がだんだん注目さ れているかという ことを考えたこと があるかと聞いて、 教材を読んで考え てください。古着に 「エコ」という付加 価値を付けたオシ ャレの楽しみ方と、 環境へ配慮する意 識も高まっていく と、二つの内容を引 き出します。 | 教材の内容で 質問を答えて もいいし、自分 の答えでもい いです。 | 質問:みなさん、 なぜ古着がだん だん注目されて いるかというこ とを考えたこと がありますか。 |
| | | 1) 宿題のチ ェック2) 発 | | | | 最終発表は授業で 習ったサブカルチ | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|---------------|--|--|--|---|--|--|
| | | 表のルールと内容を説明する | | | | ャーの内容を中心に、「日本サブカルチャー体験ツアー案内」というテーマで、学生たちはツアーガイドとして日本のサブカルチャーが体験できるツアーを設計し、そして紹介する形です。 | | |
|--|--|---------------|--|--|--|---|--|--|

まとめ：

前回の授業内容を確認する際に、3人に話してもらって全体を確認するつもりであったが、一人で全ての内容を話してくれて素晴らしいと思う。マインドマップを使って復習するのはいい手段だと認識した。どの資源を浪費したかと聞いたとき、学生の正答できないと想定したが、みんな知識が豊富で水まで答えてすごくいいと思う。最後の授業で参考文献を書いたが、引用する時参考文献をかく必要があることを、皆さんに伝えていないので、少し残念だと思う。

3.9 最終発表

今回の最終発表は授業で習ったサブカルチャーの内容を中心に、「日本サブカルチャー体験ツアー案内」というテーマで、学生たちはツアーガイドとして日本のサブカルチャーが体験できるツアーを設計し、そして紹介する形である。発表の成績を評価する必要があるので、鷲見先生と伏先生に審査委員を担当していただいた。最終発表はグループでPPTを作って、そしてPPTの内容に合わせて一人ずつツアーの一部分を紹介する形である。最初は4人グループを想定したが、学生たちが自分でグループを作るので、3人と5人グループもある状態になる。発表に参加する人数は14人で、グループは4つある。発表順番はグループができた時間によって決めることで、つまり最初作ったグループは発表順番が1位になるということである。

学生たちが作ったPPTはすごくきれいで、これだけを見てこの場所に行きたいという気持ちが出てくる。そして、中国にいた学生たちは、私たちが知らない場所までテーマにして、詳しく紹介してくれてすごく感動した。私たちもいい勉強になった。学生たちが作ったツアー案内にしたがって旅行する気も出てくる。私たちは授業をするときに、第6コマだけ参考文献を書いたが、これ以外参考文献を書いていない状態なので、学生たちが作ったPPTも参考文献がなかったことになった。引用するとき必ず参考文献を書くことを、学生たちに伝えなかったの

は、すごく残念だと思う。これは注意すべき点である。
以下では、学生たちが作った PPT の一部を展示する。

グループ 1：沈秋彤，魏志璇，鲁艾米，金天舒

内容：アメリカ村



1



2



3



4



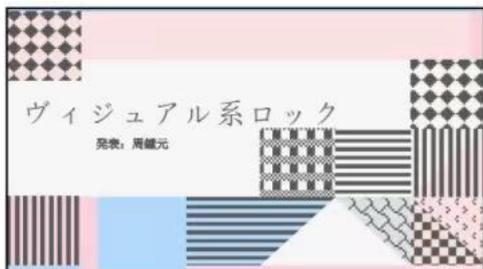
5



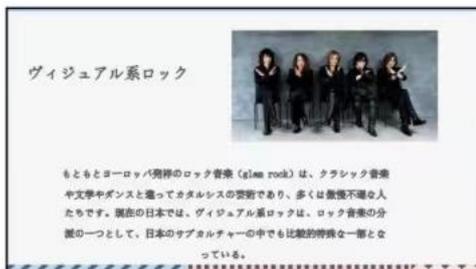
6

グループ 2: 周钟元, 张天涵 (欠席), 黄益轩

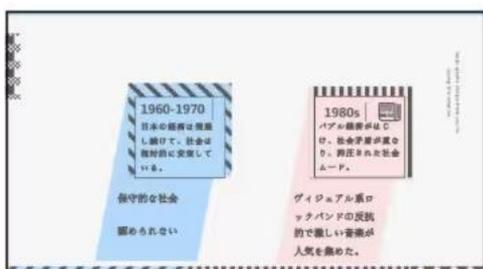
内容: ヴィジュアル系ロック



1



2



3



4



5



6

Visual rock and roll

coffee house jtbku 京都 得味の知れない道徳劇

ヴィジュアル系ロック-livehouse

ロックが日本で熱狂にブームになってから、東京や京都には新しいライブハウスができてきた。今ではロック・ショーを楽しむためにこれらの場所に行くことができ、良い観客があり、高品質で楽しめるので、非常に素晴らしい機会とは異なり、少ない費用で、より良い音楽を楽しむことができる。このほか、上野の森では日本のバンドのライブハウスを見ることが出来る。



7

もう一つのライブハウスは京都府下京区（しもぎやうく）喜小園（よみのこうじ）私邸（しりてい）（ぶこうじ）下下にある【喫茶】。1974年にオープンした家100年のcafeを改装した。今でも毎週土曜日〜音楽を楽しむことができます。普通のバーのように地元の。

京都では、このような場所はどこにもあり、ロックやその他の音楽を楽しむことも容易である。



8

ありがとうございます！



9

グループ 3: 王宏坤, 任嘉华, 陈彬鸿, 高云洁, 王涵琦

内容: 東京都市圏のサブカルチャーのご案内



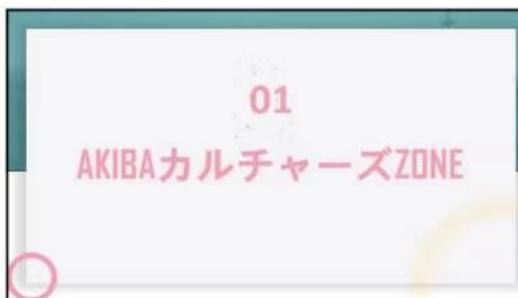
1



2



3



4



5



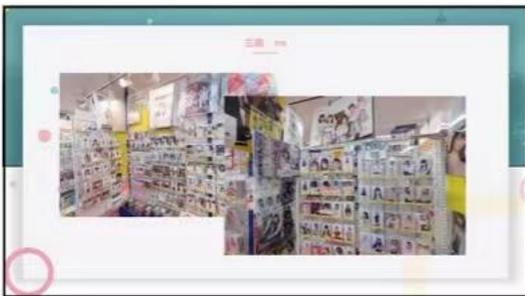
6



7



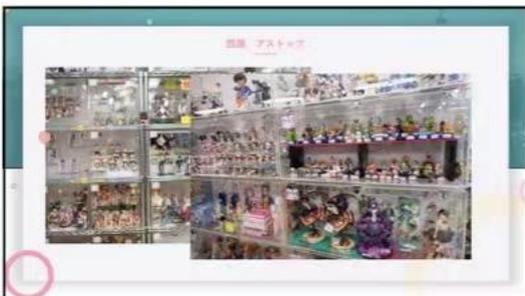
8



9



10



11



12

グループ 4: 曾莹, 辛弋, 袁静怡

内容: ミラクルオタクの日本巡り



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

4. コースが終わった後

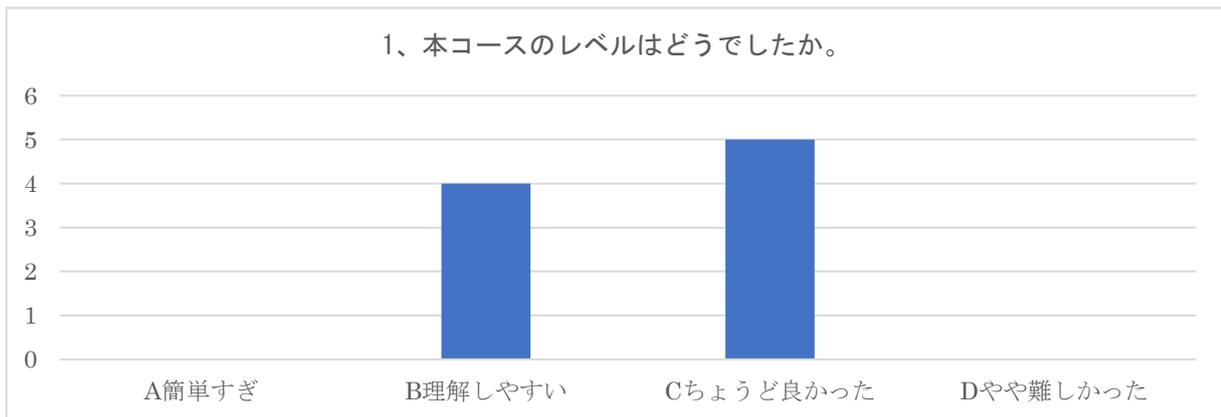
4.1 アンケートの作成と回収

今回の実習は、学生たちにどのような効果があるか、学習意欲を高めるか、授業の内容に満足したかなどの点について把握したいため、「問巻星」という中国のオンラインアンケートウェブサイトを通してアンケートをデザインした。今回、「授業評価」と「学生の自己評価」の2つのアンケート調査を行なった。

デザインしたアンケートのリンクを wechat グループで学生たちに送って、授業が終わった1週間以内にアンケートの結果を回収した。アンケート結果を以下にまとめる。

4.1.1 授業評価の結果

アンケート「授業評価」の質問1は授業の理解度について確認する問題である。そして、質問7と質問8は授業の内容がどの部分に役立つかについて確認する問題である。また、質問5、質問11、質問14問は自由記述問題である。その以外は、積極度がある選択問題である。



授業評価

- A.全く当てはまらない ■ B.やや当てはまらない ■ C.どちらとも言えない
■ D.やや当てはまる ■ E.非常に当てはまる

13、本コースの内容に満足し、もしチャンスがあればこのコースを後輩などにおすすめしたいと思いませんか。



12、本コースで学習した内容は、実際の使用場面でも使えるものでしたか。



10、本コースの内容は興味をもって取り組めるものでしたか。



9、本コースは学習意欲を刺激しましたか。



6、本コースは日本語の勉強に役立つものでしたか。



4、教師は意欲的に授業に取り組み、熱心な指導をしていましたか。



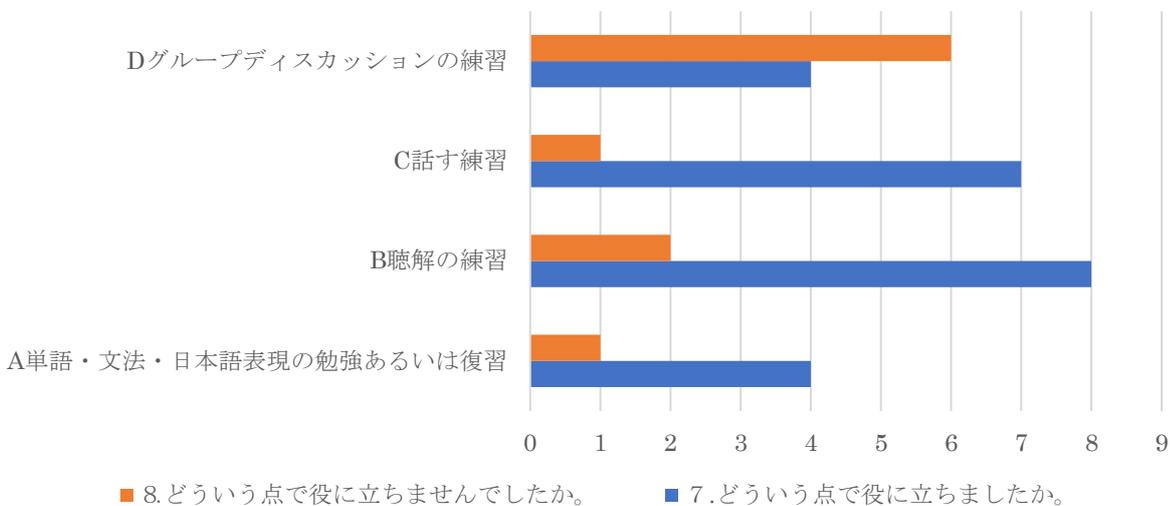
3、授業中に教師の説明はわかりやすかったですか。



2、本コースに使われた教材(PPT、WORDなど)は読みやすかったですか。



图表标题



質問 5、質問 11、質問 14 という 3 つの質問は自由記述問題で、答えが以下のようにまとめた。

質問 5. 授業における各活動の時間配布はどうでしたか。（自由に書いてください。）

- 1) 文章を読む時間が少し長くて、自分で考えるとかグループで話し合うとかの時間を増やしたらいいではないかと思います。
- 2) よかったです
- 3) 動画とかは長くなく、先生の説明の割合が高いので 時間配分はいいと思います。
- 4) いいです。
- 5) いい
- 6) 導入授業や経済効果などの時間をすこし減らしてはもっとよかったですと思います。
- 7) 完璧でした！
- 8) やや当てはまる
- 9) 非常に良かった

質問 11. どういう点で興味深いですか。どういう点で興味深くなかったですか。（自由に書いてください）

- 1) オタク文化です。
- 2) サブカエウチャーで興味深いです
- 3) サブカルチャーそのものに興味深いです。
- 4) 全部のトピックも興味深いです。特に聖地巡礼と古着の話題。
- 5) お宅の歴史
- 6) アニメオタクなのでオタク文化に興味深い。古着はちょっと、、
- 7) オタク文化についてのことでした。新しい単語を勉強しました。
- 8) 日本のサブカルチャーの起源に興味深い
- 9) 日本のアニメについての授業は非常に面白かったと思います。古着文化ならあんまり興味ないと思いました。

14、自由記述欄

ここにコメントやアドバイスなどを自由記述してください。

(なんでもいいので必ず書いてくださいね。例えば、教師・教材・授業活動・宿題についてのコメント・文句・とにかく言いたいこと、○○活動はこういうふうにしたらよかったのに、○○活動が一番好きで○○練習が一番嫌いだ、など)

- 1) 先生と楽しい時間を過ごしました。ありがとうございました！！！！

授業後の思考問題をもっと増やして、受講者に資料を調べて自分で考えただけであればいいと思います。

2) 吹き替え宿題は面白いです

3) 教材と説明は簡単でわかりやすい。

4) 吹き替えの宿題がとても好きです。これを通して、日本語をもっと流暢に話せるようになってきていると思います。

5) 全部いい

6) アニメの断片の吹き替えるのは楽しいです

7) もっと文法の練習をしたらよろしいと思います

8) 先生は優しいので、意味のわからない文を理解してくれます

9) 日本のドラマとか映画とか、そのような面は教えてくれなかったんですが、もし次はそれも加えたら、もっとうれしいと思います。

最初、伏先生は学生たちがサブカルチャーというテーマに興味を持って参加したい人が多いと言ったが、実際に授業をする時、興味を持っていない学生も4人がいた。また、授業中に学生たちは質問について反応がない場合もあって、授業内容が難しいかと不安だった。しかし、アンケートの結果を見ると、「理解しやすい」「ちょうど良かった」と答えて、安心した。

そして、当てはまるかどうかという質問が8つあり、この中で一人の学生が7つの問題に「当てはまらない」と答えた。その学生は実習があって授業に参加する時間がなくて、本来は興味を持って参加するつもりではなく、日本語能力を高めるため参加することである。それ以外、だいたい「やや当てはまる」と「非常に当てはまる」と答えた。

授業は学生たちに役に立つかどうかについて、2つの質問をした。「話す練習」と「聴解の練習」が一番役立ち、二番目は「単語・文法・日本語表現の勉強あるいは復習」である。一番役に立たないのはグループディスカッションである。最初はグループディスカッションのパターンをデザインしたが、腾讯课堂というAPPを使ってグループを2つしか分けないので、発表の部分だけグループディスカッションをデザインした。

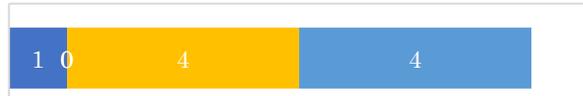
4.1.2 学生自己評価の結果

アンケート「学生自己評価」の質問1から質問9まで積極度がある選択問題である。自由記述問題は質問10だけである。

图表标题

■A.全く当てはまらない ■B.やや当てはまらない ■C.どちらとも言えない
 ■D.やや当てはまる ■E.非常に当てはまる

9、本コースを通じて、サブカルチャーを理解しながら日本語能力を高めることができたと認識しましたか。



8、授業中に勉強した内容を実際の使用場面で積極的に活用しようと思いますか。



7、このコースにおいて自分の日本語能力の四技能(読む・書く・聞く・話す)が鍛えられたと思いますか。



6、授業に意欲的に取り組みましたか。



5、発言する時に、話したいことをよく話せましたか。



4、発言する人の話しをよく理解することができましたか。



3、グループの仲間同士とのコミュニケーションがうまくできましたか。



2、本コースに関する内容をよく理解できましたか。



1、復習(授業後)しましたか。



質問 10. 自由記述欄

ここにコメントやアドバイスなどを自由に記述してください。

(なんでもいいので必ず書いてください。例えばコースに参加した感想、自分が思うコースにおいて一番良く出来たことや残念だったこと、とにかく言いたいこと、など。)

1) サブカルチャーが多様で、好きなものがあり、なかなか受けられないこともあります。こんな短い間に、先生にできる限りサブカルチャーを紹介していただき、ありがとうございました。

来学期日本に留学することになるので、ぜひ肌でサブカルチャーを感じたいと思います。

2) サブカルチャーをよく勉強しましたから、ありがとうございます！

3) コースでサブカルチャーと古着などの歴史について勉強になりました。しかし今さまざまなことはますます人気が出て(例えばアニメとか、オリエンテーションで言った菅田将暉みたいな人気俳優)、本当にサブカルチャーと言えるかなと思われま。

4) 楽しい経験でした。サブカルチャー、特に古着について、新しい知識をたくさん知りま

した。ありがとうございました！

5) 無

6) サブカルチャーについていろいろ知れて、いい勉強になりました！古着に興味があるから参加しましたが、コスプレなどのサブカルチャーもとてもおもしろかったです。

7) 様々なサブカルチャーに関する知識を得て、本当に有意義な三週間を過ごしました！ありがとうございます

8) サブカルチャー女子なのに思うより違う認識をみにつけて楽しい～

9) 授業内容はとても面白く、大きな収穫がありました。

4.2 賞品の準備

今回の授業は、学生たちがサブカルチャーに関するツアーを設計し、自分が好きな人物や、紹介したい場所などを様々なことを紹介した。したがって、学生たちが紹介した人物、場所に関わるものをプレゼントとして合格した学生たちに送ることにした。

付録

資料1：学生募集チラシ

詳しくはチャットルームにてお気軽にどうぞ



第1回オリエンテーション
はこちらへ
時間：6.18 19:00(北京時間)
場所：腾讯会议(637-094-645)




サブカルチャーとはなにか

| 授業名 | 回数 | 日時 |
|-----------|-----------------|----------|
| オリエンテーション | 第一回:関心のあるある学生向け | 6月18日(土) |
| | 第一回:受講生向け | 7月11日(月) |
| オリジナル教材 | 1コマ目 | 7月12日(火) |
| | 2コマ目 | 7月15日(金) |
| | 3コマ目 | 7月19日(火) |
| | 4コマ目 | 7月22日(金) |
| | 5コマ目 | 7月26日(火) |
| | 6コマ目 | 7月29日(金) |
| 最終発表 | | 8月2日(火) |

名古屋大学人文科学研究科大学院生による日本語教育実習
今年度はオンラインで開講
募集対象：二年生以上
募集人数：二十名

オタク・コスプレ・古着を通して日本語を学びましょう!

資料2：最終発表・評価シート

| 評価シート | | | |
|---------------|--|-----|----|
| グループ名：メンバーの名前 | | | |
| 内容 | | 満点 | 得点 |
| 言語表現 | 日本語表現の正しさ、発音の正しさ、日本語の流暢さ | 20 | |
| 内容 | 充実度：このツアーで十分にサブカルチャーを体験できるか 適切さ：これらの場所に行く理由がうまく説明されたか 面白さ：発表を聴いてこのツアーでサブカルチャーを体験してみたいという気持ちが強くなったか | 40 | |
| グループワーク | メンバー全員が積極的に発表に参加したか | 20 | |
| 総合 | 全体的に印象に残る発表だったか | 20 | |
| 合計 | | 100 | |

資料3：授業アンケート（授業評価＋学生自己評価）

2022年名古屋大学教育実習授業アンケート

授業評価

1. 本コースのレベルはどうでしたか。

- A. 簡単すぎ
- B. 理解しやすい
- C. ちょうど良かった
- D. やや難しかった

2. 本コースに使われた教材(ppt、wordなど)は読みやすかったですか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

3. 授業中に教師の説明はわかりやすかったですか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

4. 教師は意欲的に授業に取り組み、熱心な指導をしていましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

5. 授業における各活動の時間配布はどうでしたか。

(自由に書いてください。)

6. 本コースは日本語の勉強に役立つものでしたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる

E. 非常に当てはまる

7、 どのような点で役に立ちましたか。

- A. 単語・文法・日本語表現の勉強あるいは復習
- B. 聴解の練習
- C. 話す練習
- D. グループディスカッションの練習

8、 どのような点で役に立ちませんでしたか。

- A. 単語・文法・日本語表現の勉強あるいは復習
- B. 聴解の練習
- C. 話す練習
- D. グループディスカッションの練習

9、 本コースは学習意欲を刺激しましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

10、 本コースの内容は興味をもって取り組めるものでしたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

11、 どのような点で興味深いですか。 どのような点で興味深くなかったですか。

(自由に書いてください)

12、 本コースで学習した内容は、実際の使用場面でも使えるものでしたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

13、 本コースの内容に満足し、もしチャンスがあればこのコースを後輩などにおすすめしたいと思いませんか。

- A. 全く当てはまらない

- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

14、自由記述欄

ここにコメントやアドバイスなどを自由記述してください。

(なんでもいいので必ず書いてくださいね。例えば、教師・教材・授業活動・宿題についてのコメント・文句・とにかく言いたいこと、〇〇活動はこういうふうにしたらよかったのに、〇〇活動が一番好きで〇〇練習が一番嫌いだ、など)”

学生の自己評価

1、復習（授業後）しましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

2、本コースに関する内容をよく理解できましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

3、グループの仲間同士とのコミュニケーションがうまくできましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

4、発言する人の話しをよく理解することができましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

5、発言する時に、話したいことをよく話せましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

6、授業に意欲的に取り組みましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

7、このコースにおいて自分の日本語能力の四技能(読む・書く・聞く・話す)が鍛えられたと思いますか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

8、授業中に勉強した内容を実際の使用場面で積極的に活用しようと思いますか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

9、本コースを通じて、サブカルチャーを理解しながら日本語能力を高めることができると認識しましたか。

- A. 全く当てはまらない
- B. やや当てはまらない
- C. どちらとも言えない
- D. やや当てはまる
- E. 非常に当てはまる

10、自由記述欄

ここにコメントやアドバイスなどを自由に記述してください。

(なんでもいいので必ず書いてください。例えばコースに参加した感想、自分が思うコースにおいて一番良く出来たことや残念だったこと、とにかく言いたいこと、など。)

資料4：評価シート

| 上海外国語大学実習授業出席・宿題提出 | | | | | | | | | | |
|--------------------|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|------|
| 番号 | 名前 | 導入授業 (7月11日) | 聖地巡礼 (7月12日) | コスプレ (7月15日) | オタク1 (7月19日) | オタク2 (7月22日) | 古着1 (7月26日) | 古着2 (7月29日) | 学生発表 (8月2日) | 宿題提出 |
| 1 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 2 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 3 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | × | × | √ | √ |
| 4 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | × | √ | √ | √ |
| 5 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 6 | *** | √ | × | × | √ | √ | × | × | × | × |
| 7 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 8 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 9 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 10 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 11 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 12 | *** | √ | × | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 13 | *** | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 14 | *** | √ | √ | × | √ | √ | √ | √ | √ | √ |
| 15 | *** | √ | √ | √ | × | × | × | × | × | × |
| 16 | *** | √ | × | × | × | × | × | × | × | × |
| 17 | *** | × | √ | √ | √ | × | √ | × | √ | √ |
| 18 | *** | × | √ | √ | × | × | × | × | × | × |

| 上海外国語大学実習成績表 | | | | | | |
|--------------|-----|--------|----------|--------|--------|-------|
| 番号 | 名前 | 出席*25% | 授業表現*15% | 宿題*15% | 発表*40% | 総点 |
| 1 | *** | 25 | 15 | 15 | 34.6 | 89.6 |
| 2 | *** | 25 | 15 | 15 | 35 | 90 |
| 3 | *** | 18.75 | 13 | 15 | 34.6 | 81.35 |
| 4 | *** | 21.86 | 13 | 15 | 35 | 84.86 |
| 5 | *** | 25 | 15 | 15 | 38.6 | 93.6 |
| 6 | *** | 9.38 | 13 | 0 | 0 | 22.38 |
| 7 | *** | 25 | 15 | 15 | 38.6 | 93.6 |
| 8 | *** | 25 | 15 | 15 | 35 | 90 |
| 9 | *** | 25 | 15 | 15 | 38.6 | 93.6 |

| | | | | | | |
|----|-----|-------|----|----|------|-------|
| 10 | *** | 25 | 15 | 15 | 34.6 | 89.6 |
| 11 | *** | 25 | 15 | 15 | 38.6 | 93.6 |
| 12 | *** | 21.86 | 13 | 15 | 38.6 | 88.46 |
| 13 | *** | 25 | 14 | 15 | 34.6 | 88.6 |
| 14 | *** | 21.86 | 13 | 15 | 33.6 | 83.46 |
| 15 | *** | | | | | 0 |
| 16 | *** | | | | | 0 |
| 17 | *** | 16.62 | 15 | 15 | 33.6 | 80.22 |
| 18 | *** | | | | | 0 |

第3部 実習をふり返って

実習の感想

日本語教育学分野前期課程 2年
譚 斯琪

今回の実習は、コロナの影響で開始時期が予定より遅くなった。元々は4月から実習授業を始める予定であったが、今年の4、5月、上海外大の学生さんはコロナのせいでずっと寮にさせられて、学校の授業もすべてオンラインになり、学生さんの負担が大きいというのを考慮し、実習授業の開始時間を7月に延期した。最初は学生募集を本当に心配していたが、幸いに伏先生の協力で学生達が積極的に応募してくれた。

まず、二人の遭った困難が学生から教師への役割の転換ということであった。最初の説明会の時、教師より発表者の感じがした。二人が緊張しすぎて授業の雰囲気はあんまり気軽いものではなかった。ずっと二人から一方的に説明していて学生さんとのインタラクティブは少なかった。今省みたら、最初の説明会の時、学生達に簡単な自己紹介をしてもらえばよかったと思う。鷺見先生が指摘してくれた後、本番の授業に入ると、授業の雰囲気が段々良くなってきたと思う。しかし、最初の授業で文法や単語を説明する時、やはり自分の一方的な説明が多すぎて、学生達からのアウトプットが少なかった。授業の後段が段々改善してきたが、まだ足りないところがたくさんあると考える。

今回の実習を通して、深く感じているのが、教師として大切なのが学生達とのコミュニケーションということである。今回の実習時間が短くてようやく学生達と馴染むようになった気がする時、実習はもうエピローグに入った。将来、日本語教師として教壇に立つ時、必ずこの点を注意し、できる限り早く学生達と信頼関係を築けるように頑張る。

今回の実習で、一番満足したのが学生達が積極的に授業に参加してくれたということであった。最初の授業で、質問を出す時、答えてくれる人がいるかなと心配していたが、意外に学生達が思ったより積極的にチャットで答えてくれた。しかし、少し残念だったのは、学生さんがチャットで応答してくれた場合が多くて、もし直接にマイクを使えば授業の雰囲気がもっとよかったと考える。また、最後の学生発表については、徐さんと色々検討した後、日本へサブカルチャーを体験に行く旅行ツアーを作るというテーマを決めた。各グループが真面目にパワーポイントを作り、発表は思ったよりうまく進んだ。伏先生と鷺見先生が発表の採点の担当をしていただき、幸いと思う。

以前はアルバイトで日本語教師としての経験があったが、このように、自分で授業のテーマを決め、資料を探してオリジナル教材を作ったのが初めだった。二人で一から作るのは想像より難しかったと感じた。しかし、二人がよく協調して、うまく進んだ。今回の実習を

通して、チームワークの重要性も深く感じた。

今回の実習時間が短かったが、実習を通して、自分がとても成長してきた気がした。先生から色々意見やアドバイスをいただき、非常に勉強になった。これらの貴重な体験を今後の日本語教育現場に活かしたいと考える。

最後に、今回の実習でたくさんのご協力をくださった上海外大の伏泉先生、指導教員の鷺見先生、TAの王先輩、そして実習に参加してくれた上海外大の学生に心より感謝申し上げます。また、パートナーの徐さんにも心より感謝申し上げます。

様々な教え方を未来へ

日本語教育学分野前期課程 2年

陳 釗穎

2017年の春に、私は日本の鹿児島大学へ交換留学したことがある。当時、初めて日本人の先生の留学生向けの日本語授業を受けた。それは中国の大学で受けた日本語の授業と色々な面で違っていた。それぞれの授業の目標が違っている理由もあると思うが、やはりとても新鮮な体験だった。中日本自動車短期大学(NAC)を実習先として選んだのは、先生方々の教え方を現場で体験したいという気持ちも理由の一つだった。

近年、新型コロナウイルス感染症の流行で実習計画が大変なことになっている。今年の実習も決まった時期が結構遅かった。NACで実習する機会を頂けるのは昨年TAの先輩の紹介のおかげだと伺い、先輩の二人、そして当時動かしてくださった先生方々に、心より感謝申し上げる。

NACのキャンパスは岐阜県加茂郡にあり、毎回名古屋の自宅から電車で1時間半乗ってからスクールバスに乗り換えて20分で短大に着く。近いと言えない距離だった。スクールバスは3つの時間帯にそれぞれ一回往復しかなく、間に合わなかったら大変なことになる。学校の周辺は田舎そのもので、店も少なかった。不便なこともあったが、毎回電車から飛び降りたいほど美しい自然風景が見えるところだった。

今回は私一人でNACに決まったので、始まる前にやはり少し心細かった。毎週授業をするか隔週かと聞かれた時、毎週でもいいと返事したが、実際にやってみたら、三時間の授業の準備は想像したよりずっと時間がかかった。私の場合は準備を始めた時期も少し遅かったし、授業見学をしたら自分のやり方のままでは駄目だと感じ、教案を全部やり直した原因もあり、より忙しかった。幸い四回目の授業の後に、古川先生が一回の授業に文法とことばのどちらかを減らし、最後の何回が全内容でやってみるか提案してくださり、第五回から片方だけ担当することになった。

留学生の皆さんは思ったより積極的だった。中には一年間日本で生活したことがあり、日本語に慣れている学生もいたし、漢字は少し苦手なベトナム人とブラジル人もいた。このクラスでは、すべて日本語でいくしかない。私にとって初めてのチャレンジだった。逃げ道がないからしっかり説明方法を考えようと思っていた。古川先生は最初の何回かの授業を見てくださり、もっと学生の応用時間を増やしたほうが良いと指摘してくださった。しかし、当時の私はそれ以上に増やす手段がわからず悩んだ。その後、古川先生の授業を見学し、むしろ自分の授業は説明しすぎたように感じていた。鷺見先生からのコメントメールにも、意味を「説明する」より、学生との会話を通して理解させると指導して頂いた。これより、授業への考えが大きく変わった。

NACの清水先生と古川先生の授業を見学して、素晴らしい教え方をたくさん学んで、強く印象に残ったエピソードはたくさんあった。清水先生が授受表現の授業で私に会話の協力を頼んだことも、古川先生がジェスチャーで学生に文を作る練習をさせることも、強く印象に残っており、「教師は役者だ」という考え方が頭の中に浮かんだ。豊かな表情とジェスチャーだけでなく、舞台に立っているようなブロッキングもメッセージを伝えている。

私にとっては、とても難しくて鷺見先生に相談しなければならないことがあった。それは机間巡視のやり方だった。清水先生と古川先生の机間巡視をしている様子を見たら、私もそのよ

うになりたいと思ったが、自分の性格の原因なのか、人が書き終わっていないものを見るのに失礼だと感じて抵抗がある。教師の立場に立っても、まだ初対面の学生が書いているものを見るのが怖かった。鷺見先生のメールを読んで、怖い気持ちがだいぶ和んだ。思えば、私が見ようとする時、学生たちが手を避けたり、背筋を伸ばしたり、私に見えやすいようにしてくれた。私も学生たちも別に嫌だと思っていない。実際に、私はこの4ヶ月間にだんだん机間巡視ができるようになっていた。学生が問題を書いている時間以外は、まだ教壇から下りる余裕がなかったが、最終回の授業ではなるべく教壇を離れて授業をすることを試してみた。

ある日に授業が終わって、帰りのバスを待っている間に、クラスのベトナム人の女子学生Zさんと少し話した。Zさんは他のクラスメートと同じ日本語の授業を受けている他に、漢字の勉強もしている。宿題が他の学生より多いにも関わらず、とても頑張っていて、私の授業のテストで大抵一番良い点を取っていた。しかも、テストでも漢字を避けて、できるだけ使っている。しかし、彼女も自分がベトナム人なので発音にコンプレックスを抱えている。日本語の勉強は自分より中国人のクラスメートたちに有利だと言っていた。私は大学のゼミのベトナム人の先輩のことを思い出した。その先輩は日本語の発音がきれいで、まったくベトナム人だと思わないほど上手だった。Zさんを励ましたいと思い、彼女がよく努力していることが結果にあらわれていることや、ベトナム人の先輩の発音が上手だった話を彼女に教えた。他の学生にもこのような会話ができたらいいのになあと、少し遺憾に思う。

私には残された課題がまだたくさんある。一方では、言語知識をしっかりと把握しなければならない。もう一方では、学生の授業への興味を誘い出すために、「面白い」授業を磨く必要がある。自分の場合は、内容と形式をクリアしたとしても、教師としての「演技」はまだ身に付けたとは言えない。さらに、学生たちとちゃんとコミュニケーションを取りたいと思う。たわいない話だけでもいい話になるかもしれない。付き合いが短い人には積極的に話せない性格だが、もしあるクラスと長い付き合いができるチャンスがあれば、もっとしたいと思う。

実習で学んだことは、今後日本語の授業をする時、活用して行きたいと思う。今回の実習が終わったが、教え方の学びは終わりが無い。環境が変われば、更に新しい教え方を学ぶ必要があるかもしれない。日進月歩するインターネット技術より、私たちが想像できない教え方も現れるだろう。私は様々な教え方を学んでいくという気持ちを忘れてはいけない。

最後に、今回の実習でたくさんのご指導やご協力をくださったNACの古川先生と清水先生、指導教員の鷺見先生、TAの先輩たち、そして学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

日本語教師になるのは簡単ではない

日本語教育学分野前期課程 2 年

徐 曼

ずっと中国にいて上海で授業をする可能性が高いと思っていたが、コロナ禍で上海は3ヶ月間隔離の状態になり、できなくなって本当に残念だと思う。先輩たちの経験によって、3月から授業の準備を始めた。以前オンラインで日本語を教えることがあったが、私が一方的に授業をして、学生たちはただチャットで質問、答えなどを書く形であった。いい交流ができる授業ではなかったと思う。今回は、授業で勉強した CLIL という方法を通して、交流でき、フィードバックできる授業をするのは、学生たちがサポートしてくれて本当に楽しかった。以前はただ試験のため、日本語を教えて、学生たちが授業に興味を持つかどうかには関心がなく、ただ点数に注目していて、今から見ると、私にとって斬新な教育方法を通して授業をするのはいい実践になると思う。しかし、ずっとオンラインで授業をするので、直接現場で授業をするのは望ましい。また、学生と会えなかったことも少し残念だった。

以前は他人が作った教材を使って日本語を教えていたが、今回は、自分の意思で授業の内容から決めることができ、本当にいい経験になった。最初は和服、茶道を中心に、授業の内容を考えたが、私たちが興味を持つものより学生たちが興味を持つ方がいいと考えて、サブカルチャーというテーマを決めた。学生を募集するとき、参加してくれた学生たちはこのテーマに興味を持つと想定したが、実際にサブカルチャーに興味がない人もいた。サブカル芸能人を紹介する授業は、学生たちが紹介された芸能人をほとんど知らなかったもので、この授業でいいのかととても不安になった。授業の後で、自分で反省して、わからないこと、知らないことがあるからこそ、授業をする意義があるのだと思い直した。

本来はグループワークをデザインしたが、使った APP はグループを2つしか分けられないので、グループワークをやめた。少し残念だと思った。しかし、譚さんと相談して、発表の部分にグループワークをして、グループディスカッションの練習をすることになった。このパターンを入っていない授業が完全ではないと思った。また、最初は譚さんと一緒に授業をして、お互いに支える形で行うことを計画していたが、7月19日から私が名古屋に移動したので、一人ずつ3回の授業をすることになった。今回の実習を通して、チームワークの重要性は深く感じたと思う。

授業をするうちに、最初より上達したと思っている。一方的に授業をする形から、学生たちが自発的に発言するようになった。最初は中国語に頼って説明していたが、だんだん日本語で説明できるようになった。また、授業の開始時と終了時は最初急に授業内容に入って、急に授

業が終わる状態だったが、だんだん話しながら主題に入ることができるようになった。

今回の実習が短いので、まだ直したいところがあり、特に例文の適切さについて注意しなければならない。学生が考えずに例文を出すのは難しいので、自分が例文の一部を出して、次の部分を学生に話せるという先生からのアドバイスがすごく勉強になった。もし、他の機会があったら、ぜひ運用したい。自分が把握できるかどうかと確認したい。

最終発表は自分がとても感動した。学生たちは中国にいたが、資料をいっぱい調べて、また実現可能性の高いツアー案内を出して、私を驚かせた。最初はサブカルチャーに興味がない学生も、ペラペラで発表してくれて嬉しかった。今回の実習は鷺見先生と伏先生のおかげで、円満に終わらせた。譚さんと一緒に実習するのは、本当に良かった。今回は短い間に正式な大学生に日本語を教えるのは、いい経験になって、自分も大きい達成感を感じていた。これから、勉強したものを運用できるように、いい日本語教師になれるように、頑張りたいと思う。